

平成4（1992）年Jan/28（火）

06：00＝起床

08：20＝隣地の母宅を訪ね霊前の父・兄姉妹に出発報告。旅の無事をお願いする。

08：40＝母と風邪で学校を休み自宅療養中の息子の見送りを受け、家内の運転する車で京セラ鹿児島川内工場横が始発の空港直行バス停留所へ。出発間際にショルダーバックのチャックがおかしくなっていたので、バス停横の空地の車の中で、どうにかバックのチャックを補修。（家内からは、あまりにも荷物を入れすぎたせいと苦情を受け、冷や汗をかきつつ補修する）鹿児島空港直行バスの運行は、昨年12月20日から林田・南国交通が共同運行しているものであるが、空港利用者にとっては非常にあり難い足である。

09：10発であるが、09：00にはバス到着。最初の乗客として乗り込む。他に3人の乗客が京セラ鹿児島川内工場横の始発バス停からはあり。市内の鹿児島空港直行バスのバス停は、上川内の林田バス停・大小路の南国交通センターバス停・太平橋通りの林田バス停・川内駅前であった。県道川内・加治木線を進んだバスは、蒲生町から横道に入り込み始良インターから九州縦貫自動車道に乗り込み溝辺町にある鹿児島空港へ。所要時間1時間20分であり、自家用車で行くのと比べてもそう時間的差無し。（料金1,500円也）

10：35＝JALの一番右端にある団体カウンターで、羽田へのフライト便受付を済ます。

11：20＝定時にJAL3-94便鹿児島空港を離陸。後部右側の窓側の禁煙席から、今日も元気に噴煙を吹き揚げている桜島を見る。飛行機は、南東の風に乗りたなびく桜島の噴煙を避けながら飛行。機内は空いており下界の景色をゆっくり楽しむ。宮崎の美しい海岸線上空を通過。日南市の皆さんに、一足お先にと高い機上から失礼ながら挨拶。

12：50＝定刻に羽田空港に着陸。空港内案内所で成田行きのリムジンバスの時間を確認し乗車券（2,700円）を購入する。次回は13：30とのこと。鹿児島川内の自宅に無事羽田着の電話を入れる。リムジンバスの受付乗務員から、「南ウイング行きですか、それとも北ウイング行きですか」と、予想しない質問を受ける。明日出発で成田の宿舎名を告げると、最初バスが着く南ウイングで降りてくださいとのこと。1時間20分のリムジンバスの乗客となったが、車中では良く眠る。空港手前で車内放送あり。手荷物を持って下車し、パスポートを提示し空港公団ガードマンの検査を受けるが、何と物々しいことか。南ウイングでバスから下車。エスカレーターを利用し、1階に降りタクシーを捜し、集合指定宿舎の成田東急インに15：00に到着。

成田東急インのカウンターでクーポン券を持っていないが、宮崎交通観光（株）の紹介で、宮崎県日南市一行と一緒に宿泊することになっている鹿児島県川内市の桑原ですと、ボーイさんに荷物を預けたままで尋ねるが、全然要を得ない。ファックスで日南市から送られてきていた今回の旅行表を提示し確認を求める。宮崎交通観光（株）に確認してみますからと15分間ホテルロビーで待たされるはめに。ようやく確認が取れたようで1034号室に案内を受ける。カウンターにあり線を入れ、日南市の皆さんがお着きになられたら、出迎え御挨拶をしたいのであり線連絡をと依頼し、しばし休憩する。

17：20 田中さん（日南市商工会議所会頭・同市日米友好協会会長・宮崎阪神タイガース後援会長で奥さんは加世田出身）から到着の連絡自室にあり。ホテル側からの連絡を待っていたのに、既にお着きになられ自室からの連絡に慌てて皆さまのお部屋を伺い、ご挨拶をする。遠藤さん（東京在住：英語ペラペラで日南市長の奥様の妹）が日程表や出入国申請に必要な書類を持って来てくださる。（同書類には、お書物で学習した事項が、既にタイプで記入済となっており有り難く感謝する）

19：00 田中会長、田原所長（日南市東京事務所長）、須志田さん（南郷町職員で姉妹盟約締結協議全権特使）、遠藤さんと自分の今回の旅行団一同で、ゆっくりと成田の夜長を見ながら夕食を楽しむ。田原所長から白川川内市東京事務所長から預かってきましたと饞別が届く。遠藤さんから山本教授にようやく連絡が取れ、2月1日に予定のプロッサー元大佐宅訪問の件で、「プロッサー元大佐自身がポーツマス市へ出てこられます」との連絡が入り。田中会長から「車で約2時間程度離れており、それは有り難い変更」とのお話あり。ポーマ

ス市表敬訪問の内容と土産等について夕食を摂りながら協議。田中会長を除けば先程会った初対面の皆さまであるが、先日来の友人のように気楽にお話ができる。本当に良い皆さんとの旅となるようで幸せなり。

20:30 自室に引き上げ、自宅と川内市役所警備員室に電話を入れ、白川東京事務所長の自宅の電話番号を聞く。白川さんに電話を入れ田原日南市東京事務所長経由で届けられた餞別のお礼を言う。白川さんいわく「道男の最後の旅行故に餞別も奮発したからな」とのこと。高校の一級先輩であるが「46会」（昭和46年市役所同期入所の親睦組織）・「発気会」（職組からは睨まれた市役所市職員の学習会）の仲間であり、有り難い心遣いに感謝する。なお、2/4開催の20年永年勤続表彰式には帰川できないが、3月議会には帰川すること。

Jan/29 (水)

06:30=起床

07:50=ホテルチェックアウト

08:00=歴史資料館の上園係長（細君は高校の郷土史研究クラブの後輩の黒ちゃん）へ明日の定例教育委員会と樽木社長から依頼の長谷川主事のお見合いの件で電話確認連絡。鹿児島母へただ今からホテルを出発する旨電話連絡すると、今朝も墓参りに行き無事な旅を亡父に相談してきた旨の連絡あり。国際空港に近いホテル故か、ロビーには外人さんの姿を多く見かける。

08:20=ホテルの送迎バスで南ウイングへと出発。昨日同様に空港公団の警備員から車荷物検査とパスポート提出を求められ、空港への立入り検査を受ける。北ウイングまで足を伸ばし家内から紹介を受けていたJCBカウンターで、アメリカ東海岸JCBサービス店網とニューヨークCity Mapをもらう。空港内売店でプロッサー元大佐へのお土産（壁掛け人形）を買い足す。朝食を取ってこなかったのでお腹がすく。須志田さんのサンドイッチを横からいただく。ANAのチェックインを10:30までに済ませ、旅客サービス施設使用料2,000円なるものを払い、10:40出国審査を受け、免税店で航空券を提示し、米国滞在中の煙草としてセブンスター10個を買うが、半額の1,200円也。煙の半分は税金として吸っていることが判る。ANA0022便へは、まずファーストクラスの乗客からの誘導で始まり、その後にエコノミークラスの我々の案内者。どういう人がファーストクラスの乗客かと興味深く観察する。飛行機はテクノジャンボ（B747-400）で座席数は365席。自席は56Gで通路に面し左横は空席なり。新東京国際空港を11:29離陸。機長案内によると途中の飛行高度は10,050㍎で、燃料消費に伴い経済高度まで上昇し10,300㍎を維持しつつアラスカ・アンカレッジの北を飛行し、目的地のワシントンDCには、明日午前9時過ぎに到着予定とのこと。機内にて飲物のサービスを受ける。身動きのできない長旅故に腰や首が疲れなないようにと首だけでなく背中にも枕を当て腰痛対策をほどこしつつ、ヘッドホンを利用し軽音楽鑑賞をする。13:10昼食がでる。前席の遠藤さんは、自分が頼んだ仁礼川内市長から託されたポーツマス市長への親書の英訳に御苦労中。14:00から2本だての映画が上映されゆっくり鑑賞する。15:00には窓際のブラインドが閉められ夜間飛行に。後部のトイレに行った際、ブラインドを開け機内から夜空を眺め、一等星数個を確認する。18:40軽食にと小さなホットドック1個がふるまわれる。スチュワーデスの仕事も大変だ。常時機内を巡回し客の注文に応じている。

皆さんお休みの模様なれど眠たくもなし。コーヒーをいただく。19:00田原さんに川内市長親書の写しを渡す。機内では食後の運動がままならず、胃はもたれぎみ。トイレに行き帰って見ると、自席は見ず知らずの女の子に占拠されており、後部のスチュワーデス席に座り機上からの星空視察をしたり軽運動をして、お腹を楽にする連動に従事。それにしてもズウズウしい女の子なり。スチュワーデスが巡回してきたので、理由を述べ席の移動を促してもらう。我が席周辺は、喫煙席であるが周辺の女子大学生風の女の子がタバコを吹かしている様に“大和なでしこ”は何処にとゲンナリ。良く飲み・良くパクツキ・良く吸うは。

20:45＝後部席に日本時間と米国時間と到着までの時間が表示されているのに気付く。あと目的地ワシントン空港まで2時間45分。この表示を見てホットすると、田中さんから残りの2～3時間が一番きついですよとの注意あり。後部の窓から下界を見ると、何とも表現し難い厳寒の大地と、雪雲が広がっている。

22:00 朝食が出る。米国時間への時計変更機内案内放送あり。後部席のデジタル表示時計を見ながら腕時計を正確に修正する。(22:00-14:00=08:00)

しかし、カメラの日付デューの修正がうまくいかず、カメラの日付データーは一応抹消する。

ワシントンDCでの入管審査事務等の案内TVを見ながら着陸を待つ。

ワシントンDCでの入管審査事務及び税関事務は、思ったよりも簡単であった。サンキューとのお礼の青葉を述べて入管審査官の前は通るよう遠藤さんからアドバイスあり。この青葉だけには自身があったので、パスポートに入管審査済の印鑑とサインをしてくれた黒人の審査官に“サンキュー”とのお礼を言う。空港待合室には、ワシントンでの添乗員・東条さんが待っていてくださる。東条さんの大型の乗用事に乗り、凍ったポトマック河畔を横眼に見ながら、約250万平方メートルのアーリントン国立墓地(右下写真2点)(永遠の炎が燃え続けているJFケネディー※のお墓も見。国旗が半旗

の際はお葬式がありますよとの表示とか)・アメリカ海兵隊硫黄島記念碑・リンカーン記念館(大きな記念館の中にリンカーンの石像あり、あのあまりにも有名な『人民の人民による人民のための政治』という言葉の彫り物も見。ワシントン記念塔も見える)・ホワイトハウス(思ったほど広大な敷地、建物には見えなかった)・スミソニアン博物館グループ中/国立航空宇宙博物館を見学して、ワシントンでの宿舎シラトンワシントンホテルに14:00到着。須志田さんと同室の7035号室なり。

各自部屋で休憩後、14:30ホテル内食堂で軽い昼食にと、オレンジジュースとターキーサンドイッチを取る。米国風で量が多い。皆さま量が多すぎると残されたが鹿児島弁の“うぐれ”(大食漢)の自分は全部おいしく頂く。なお、コーヒーに入れるC₆H₁₂O₆等の種類の多さに驚く。太りすぎ防止のため色々な人工甘味料が準備されているようである。

※ポトマック河畔沿いをジョキングしている人を多く見かけたが、米国人は健康に留意しながら、良く食べ良く太り、そしてしかたなくジョキング等でやせる努力をしている、食べる量を減らすことを知らない民と見た。

夕食は、日本料理店「桜」にタクシーに乗って食べに行く。

タクシーの運転手さんは、エチオピアから来ている方で、25年前に米国に移住してきたとか。中国人・韓国人・日本人の見分け方としては、日本人が一番物腰が柔らかく落ち着いているとか。自分の息子は、エチオピア人としての誇りを忘れないよう、少々月謝は高いがエチオピア人の学校に通学させているとの話を聞く。ハイレ・セラシエ皇帝の国の民であり、何か高貴な方に前席の運転手さんが見えてきた。ホテルから「桜」までは、夕方のラッシュ時と重なり約30分近くかかった。夕食には、エビの照り焼きを頂く。「桜」の床の間は、これが米国風床の間かというようなチャチな仕様で、部屋の照明も暗かったが、デザートはバイキング風で取り放題とあって、各種デザートをおいしくいただく。「桜」から帰りのタクシーの運転手さんは、南米アルゼンチン出身の運チャンで、経済問題等について遠藤さんの通訳で色んな意見を拝聴した。「俺の車は、日本の車よりも大きいだろう。日本にタクシーの自動ドアの導入研究に際し研修に行ったが、ああいうものは不用だよ。お客が開け閉め



すれば良いものを付ける必要はない。日本人は働き過ぎ。俺は1日6時間しか働かないことにしている。自分の生活をエンジョイするためにだけ働けば良い」等のご意見を拝聴する。

ホテル帰着後、9+011+81+ゼロ無し996+自宅の電話番号で国際電話で、鹿児島島の自宅・母宅・歴史資料館・秘書広報課の蓮香秘書係長に電話を入れる。こちらは、29日の午後8時過ぎだから、14時間の時間差があるということだから、日本は30日の午前10時位か。しかも、国際電話通話は国内通話以上に明瞭で近く感じられる。(1通話\$13.8=1,725円)

ホテルのベッドも大きいし、高さも高い。落ちたら痛いだろう。浴場の須志田さんから冷水しか出ない、どうしたら熱湯が出るのとお尋ねがある。蛇口の使い方がどうも判らないが、引いたり押ししたり左右にひねっていたら熱水が出始めた。お湯が出たので風邪予防のため持参の「しょうが湯」を作りおいしく頂く。テレビも二カ国語放送はなく英語ばかりで良く判らない。時差を感じどうしても眠れないが、ベッドに入り眼を閉じ、眠りに着くよう努力する。

※昭和18年=1943年の8月2日未明、JFケネディーが海軍中尉で艇長を務めた魚雷艇「PT-109」がソロモン諸島の近くのニュージョージアの西海域で日本の駆逐艦・天霧との偶発的接触事故により追突され、同艇は真っ二つに引き裂かれ魚雷艇の乗組員たちは命からがらブラム・ブディング島に辿り着いたという先の大戦秘話に関し、1960年の大統領選挙の際「天霧」の元乗員一同から激励の色紙を贈ったという余話が残されているが、駆逐艦・天霧の当時の艦長は亡父の海兵同期の花見弘平少佐で、東北出身の同少佐の「弘平」の発音が「コーヒ」との発音にしか聞こえず、海兵学生時代は「ハナミ・コーヒー」の愛称で呼んでいたことを、亡父からこの衝突事案がJFケネディーが大統領就任後新聞等で報じられた際語ってくれた事を思い出した。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A7%86%E9%80%90%E8%89%A6>

Jan/30 (木)

05:00=起床する。05:30=モーニングコールを受ける。

06:00=ホテル内食堂にて朝食。日本みたいに勝手に着席はできないとかで、案内を受けて着席。パン・コーヒー・牛乳をおいしくいただく。自室を出る前に鹿児島島の自宅に電話を入れる。家族も米国関係のニュースには敏感になっているのか、家内から宮沢総理も国連出会のためニューヨークに向け出発されたとの報告を受ける。

07:00=ドアの外にポストンバックを出す。ホテルカウンターで自室番号を告げ国際電話通話料を清算する。シラトンワシントンホテル宿泊記念にとカードキーをいただく。

添乗員の東条さんの車で、ワシントン国際空港まで送っていただくが、途中の道路はラッシュ時間帯に合わせて一報通行になり、朝の時間帯は、郊外から市街地向けの一方通行。また逆に夕方は、市街地から郊外に向けて一方通行になるとのお話を伺うが、米国人の合理主義的発想である。空港での国内線チェックインを済ませ、2階空港待合室の厳格に区別された喫煙スペースでおいしくタバコを吸う。英語の発音に耳を馴らそうと周囲の米国人の英語に聞き耳を立ててみるが、何を話中なのかチンプンカンプン。

09:00=東条さんの見送りを受け機内へ(US Air-DC9)

09:15ようやくエプロンを離れるが、離陸の順番持ちで滑走路は一杯の飛行機が待機中。

09:22ようやく離陸する。機長アナウンスは英語オンリー。日本の飛行機は、外人さんは乗ってなくても日本語の放送の後には、必ず英語の放送があるが。機内のシートベルト・喫煙の表示も1箇所のみ。米国機は原則機内では禁煙のようである。田中さんと隣合わせの席で、窓側の席を提供していただき、ゆっくり下界の様子を見ながらポストンへの飛行機の旅を楽しむ。離陸後直ぐにあのあり名なヒシ型=五角形の建物/ペンタゴン/国防総省の建物を視認する。同建物内には、約2万5千人からの職員が働いているとか。上空から気付いた米国の住宅地内の突き当たり道路、全部先が丸くなっており、車社会の中でUターンがしやすい工夫がされていることが判った。

09:45＝機内ではジュース等飲物のサービスに引続き朝食のサービスあり。機内の朝食は、パン菓子をやわらかく焼いたものにデザート付きであった。洋上飛行後10:28ボストン空港に付く。添乗員さんの出迎えを受け、彼の車でボストン市内観光に出かける。その地名は、ボストンマラソンでしか知らない街であるが、大都市であり美しい歴史のある街との第一印象を受ける。海軍基地内にある帆船コンスティテューション（世界最古の戦闘艦／オールド・アイアンサイド＝鉄の横腹を持つ彼女／米国建国のヒーロー船）と、ボストン港守備用の駆逐艦を見学する。駆逐艦は沖縄上陸作戦にも参加した艦であるとの説明を受ける。続いて1775年の独立戦争／バンカー・ヒルの戦いを記念して建てられたというバンカー・ヒル記念塔を下から見学する。同塔入り口の事務所内には、英国との独立戦争の様子がジオラマで展示されていた。古い街並みを見学して回る中、丸石を敷き詰めた狭い道路（右写真）を見学中、同道路に面した建物にお住まいの初老のジェントルマン氏から、もしよかったら同氏の邸宅を見学しても良いよとお誘いを受ける。添乗員さんもこんなお誘いは初めてのことであり、ぜひお土産話しに見学をと勧められ、4階建ての落ち着いた雰囲気のある建物内を見学させていただく。お礼にタバコを1箱差し出す。住宅地も商店街も落ち着きを感じさせる街・ボストンである。



なお、独立戦争時の史跡を大切にしており、同史跡を案内する道路表示として、道路に赤い線（右写真）（一部には赤煉瓦使用）が引いてあり、この線をたどって行けば、独立戦争史跡を漏れなく見学できるようになっているとのこと。日本での遊郭を指す「赤線」とは全然別の意味を持ち、スリーダムレロー（自由の道）＝独立戦争史跡見学路とでも直訳か？。



12:00＝邦人経営の「魚菜」（ギョサイ）で外人さんを横眼に上手に箸を使い定食を頂く。13:30＝「魚菜」を出発し、ハーバード大学へと移動。途中、車窓からマサチューセツ工科大学を凍った川向いに眺める。ハーバード大学（左写真）は、1636年創立の世界で5番目、米国では一番歴史の古い大学。エリート校で6人の合衆国大統領と31人のノーベル賞受賞者、30人のピューリッツァ賞受賞者を輩出している大学である。なお、授業料も高い大学とか。構内を散策するが受験雑誌に出てくるような赤煉瓦の建物が建ち並んでいる。大学前のCoopをのぞくと各種文房具が売っていた。



14:30＝同大学を出発し一路片側4車線の広い道路をポーツマス市に向け移動する。

17:00＝ポーツマス市の宿舎コンフォートインに到着。部屋は各室にベッドが2個ずつある広い部屋である。2泊することになるのでボストンバッグから衣類等を出し、タンスにしまう。

18:00＝フォーレイポーツマス市長がお嬢様の運転する車に乗りご挨拶に見える。313号室の遠藤さんの部屋で南郷町・北郷町との今夏5月の姉妹盟約締結についての事前協議始まる。（須志田南郷町全権大使が、遠藤さんの通訳と、田中さんの応援で活躍）※番外で聞いていたら姉妹盟約締結書の内容等面白いこと多々あり。同協議が無事終了した時点で、田中さんの紹介でフォーレイ市長に訪米の目的等を伝えご挨拶する。明日、仁礼川内市長からの親書をお渡ししますが、その前にと市長から預かってきた薩摩焼きの夫婦茶碗と自分が持参してきていたお土産を渡す。非常に喜んで頂く。フォーレイ市長は、先週エレベーターから落ちて右腕を骨折されたとかで、右腕をナプキンで吊っておられたが、元気な女性市長さんである。

フォーレイ市長さんのご家族（ご主人と高校教師のお嬢様）を夕食に招待する。夕食会場は、ここに来たら絶対食べなければというロブスターの店に。タクシーで約15分間の所にある

同店は“ネウイックス”という名の店で、ただダダッ広い何の飾り付けもない店。店内には家族連れが多く誕生会等を実施しているグループも見受けた。ロブスターはザリガニを大きくしたものでミソは薄い緑色をしていた。8人前で\$120とは安い。ロブスターの食べ型について遠藤さんから説明があるが、皆話に花が咲き誰も開こうとしない。遠藤さんから宮崎弁での『あんたたち聞きナッシャレ』との大声が出る。楽しい前日の夕食会であった。ホテル帰着後、須志田さんの部屋で22:30まで反省会を実施する。

Jan/31 (金)

まだまだ時差ボケあり04:30起床する。昨夜から進めている亡父軍刀返還時の挨拶文をようやくまとめあげる。遠藤さんからの電話案内を受け07:30朝食を1階サロンに食べに行く。選んだパンで熱する物があれば窓向かいのお嬢さんに渡せば良いとか。コーヒーは各自何杯でもOK。朝食終了後十分時間があるので、再度先程の挨拶文に目を通し修正を加える。返還現場でのシナリオ等の状況が全然判らないので、これだけを話しが前後してもお話しすればという原稿で諦める。

09:00=日本の役所で言えば総務部長職に該当するというManager of cityのマホーニー氏が自家用車で迎えに来てくださる。同氏の運転する車でポーツマス市役所に向かう。マホーニー氏は市の内部行政事務の全権を持つやり手で、市長の信任が厚く職員からは怖がられている方だそう。市庁舎到着後、会議場に連れて行っていただく。会議場は議場(右写真)で、市長=議長とか。(市長選の次点者が助役)三人着席し記念写真を撮る。その後フォーレイ市長自ら(右下写真)庁舎内各課所を案内してもらう。



現在の庁舎は元病院だったとかでエレベーターも広いもので個室も適当にある。また前の市庁舎はオールドシティホールとして保存してある。企画課の部屋では、NASAの航空写真でポーツマス市の概要を職員が説明してくださった。同市の予算書をコピーで頂く。職員の説明が済んだ後、市長が言われた言葉は「よく判り易く日本からの友人に説明してあげました。有難う!」と説明職員への感謝の言葉。日本ではお客さまの前で褒めるなんてことは絶対ないことでありビックリする。しかしこの褒め方が一番ベターな方法なのかもと感心する。市長から市内の施設を案内するよう指示がありましたと、都市計画棟の女子職員スーザン嬢が迎えにこられ、彼女の運転する公用車(市警の覆面パトカー、後部には警察官の帽子が置いてある)で市内見学に出発する。警察無線を聞きながら、回った先は、①日露講話全権団が宿泊したというホテル・ウェントワース(左写真) ②ヨットハーバー ③戦前は独軍のUボートも侵入してきたという港 ④古い住宅を移設展示してある戸外史跡博物館ストロベリーバンク and ミュージアム・ショップ/200年以上経過した建物でないともあまり不動産的価値はしないそうである。また木造の建物が長持ちするのは壁板が硬い木で長持ちするとの



補足説明あり ⑤スーパー(新鮮な果物多し、雑貨用品を含め展示方法はただ店内の棚に並べてあるだけという状態。日本製品はキッコマンのしょう油のみを確認する)

昼食時間になったので、案内・運転手のスーザン嬢と一緒に昼食に招待しようということになる。米国人からしたらちょっと贅沢という昼食(ホットドック)を取る。スーザン嬢言

わく、最初一緒に昼食をと誘われた時、サイフの中身が非常に心配だったが、皆さんがご馳走してくださるのなら、私がお勧めする一番おいしい物を食べましょうと、正直な告白あり。田中さんから役場の職員たちはと、横から厳しいご意見をいただきつつ、同じ自治体職員ということもあり、楽しく昼食・談笑する。名刺交換の段階で、須志田さんの道夫と自分の道男の日本語訳上の違いについて、“ロードハズバンド”と“ロードマン”としてダジャレ説明する。

13:45=ポーツマス市庁舎に帰着。市長室に置いたままにしていた荷物を取りタクシーを呼びホテルに。少々時間があるのでとホテル横の10%引きのお店を冷やかしかたがた覗くが、気にいった物が無い。昨夜のロブスターハウスにあったような土産品に適した物は置いてない。

14:45=ホテルロビーに集合して、刀返還の会場・ライブラリーへのタクシーを待っているが、時間は刻々と経過するのにいつまでたってもタクシーが来ない。

15:00=フォーレイ市長から心配して電話が入る。

15:08=ようやくライブラリー（右写真）に到着する。

記者の皆さんをはじめ多くの皆さんが、狭い会場に待っておられる。山本教授に初対面の挨拶+これまでのご尽力に感謝する。直ぐに始まるかと思ったら、まずは一杯と進められたので、ジュースを頂く。持参した亡父の遺影を取り出し、プロッサー元海軍大佐御夫妻に訪米の目的を日本語で伝える。遠藤さんが慌ててお越しになって言わく、「桑原さんが堂々



と話しかけておられるので英語をお話になられたのかなーと心配して来てみると、日本語をゆっくりと話しておられますがな、ゆっくり日本語で話しかけても全然判りませんがな！」と言われればそのとおりなり。遠藤さんに通訳し助けていただく。山本教授から本日の『日本刀返還の儀』の順序について説明を受ける。儀式前の邦人の方との自己紹介中、鹿児島県指宿出身の先生がおられビックリする。神戸大学の稲積教授で、視在ニューハンプシャー大学で英文法を教えておられるとのこと。先生に失礼ながら米国の大学生にどんな英文法を教えてくださいませんか？と尋ねると、is⇒wasの変換等について教えていますとのこと、学生には君達は日本の高校での英語受験も厳しいと話していますとのことをお話を伺う。

15:30から返還式始まる。同式の日本語通訳は、三井駐在員の三井さんが務められる。

- ①山本 裕ニューハンプシャー大学主任教授から本日のゲストの紹介 and 返還に到るまでの経緯説明
- ②田中日南市日米友好協会長からの挨拶
- ③プロッサー氏からの返還に当たっての挨拶
- ④軍刀返還
- ⑤自分からの受領に当たってのお礼の青葉
- ⑥乾杯
- ⑦仁礼川内市長からのフォーレイポーツマス市長への親書の伝達（代読して渡す）



これらライブラリー内会議室での刀返還の様子の記録写真は、自分のカメラを南郷町の須志田さんに押しつけ、お願いした。

亡父の軍刀は、戦後生まれの自分に取っては、見たことのないものであったが、出発前に亡き父の兄の長男で私からは従兄に当たる桑原繁吉川内市教育委員長（30歳も年上）が語ってくれた思い出によると、亡父が独身時代、風口の叔母（父の母の姉の嫁ぎ先）の家に帰省中「おい繁吉、長い刀だろうが」と言って見せてもらったことがあったが、叔父さんが自分の身長に合うように選んだ刀ということで長いものであったということから、長い刀というイメージしか持ち合わせていない自分に取って、プロッサー氏から返還された刀よりも、刀に付いていた亡父の名札を発見した、時点の方が、記憶にのこる筆墨跡であり、目頭と胸に何か熱いものがこみ上げてくるのを感じた。

取材に詰めかけていた記者諸君からは、通訳の遠藤さんを通し感想をと意見を求められたが、どこかの衆議院議長や総理大臣みたいな失言があってはとして、先の挨拶のとおり『感慨無量』ですとの四語のみで失礼ながら片付ける。フォーレイ市長のお嬢様からは、ジェスチャーで「今日の刀の返還は、貴方と貴方の家族にとってとってもとってもハッピーなことでしたね。同席していて涙が出てきましたよ」と正直な感激を伝えていただく。

17:00=会場を近くの日本料理屋「桜」に移し、地元日本人会ジャパンソサエティー主催の懇親会に、先の返還の儀に出会した者全員がゲストとして招待を受け、寿司をほおぼりながら懇談する。皆さんから本当に良かった。シーンときたとの感想が寄せられ、この地まで来て本当に良かったとの感激を新たにした。同席で、フォーレイ市長から川内市長へのお土産と自分へのお土産をいただく。

20:30=懇親会終了。車までプロッサーご夫妻を見送る。奥様から「貴方のお母さまに
よろしくお伝えください」との別れの御挨拶をいただく。「いつまでもご夫婦御健勝で」と
心の中でご挨拶をする。ご夫妻は、山本教授の運転（ノートルダムカレッジの和田さん同乗）
の車で、メイン州スプリングバールまで2時間かけてお帰りになれるとのこと。

山本教授に、高橋大尉のものという短剣の件で、首席参謀に高橋優大佐がおられますが、
再確認をお願いしますと、第5特攻戦隊司令部の組織表を渡す。ご夫妻見送りのため外に出
ていたらヒゲのチャールズ氏から『There Are No Victors Here』という日露講話条約の本
をいただく。サインもしてある。チャールズ氏の運転するサファリ仕様の車に乗り込み、夜
のホテル・ウェントワースを見に行く。建物の一部はライトアップされており、昼間見た建
物とは違った白亜の堂々とした建物として見上げることができた。

21:00=宿舎到着 21:15=須志田さんの部屋で反省会を実施する。同行の皆さん
に心からお礼を申し上げます。皆さんからは、このような感激する場所に同席させてもらって
幸せとの、温かい感想をいただく。返還の席での自分の知らない話として、あの会場に刀を
売ってくれという人が来ており、フォーレイ市長が何であのような人を入室させたかと激怒
されていたとの、お話を伺う。本当に、皆さんのお陰であり、完全に気も動転しており、同
行の皆さんのことも返還のお礼の挨拶の中では、触れようとしていたのに、返還の席では失
念してしまい申し訳ない。今夜だけは下戸で飲めない酒を一口は口にし、同行の皆さんに感
謝する。自室に戻り、鹿児島之母と家内に盛大な返還式の中、きれいに保管されていた亡父
の軍刀と、軍刀には見覚えのある亡父直筆の名札が付いていたこと、また地元日本人会の皆
さまに懇親会まで開いていただいた旨、電話をいれ報告する。

22:55=山本教授から電話でプロッサー氏宅で短剣を確認すると、先にいただいた第5
特攻戦隊司令部の組織表に書いてある「高橋優大佐」という文字が書いてあり、高橋さんの
短剣に間違いはない。この旨を田中さんにも連絡をと電話がある。山本教授に今日のお礼を再
度申し上げますと共に、プロッサー氏から預かった、鹿児島
で撮影された少女（右写真）の消息確認については、帰国
後責任を持って対応する旨、プロッサー氏にお伝えくださ
いとお願ひする。

今日からは、ゆっくり眠れそうだと思うが、今日の亡父遺
品との対面の感激がいつまでも気を高ぶらし、なかなか眠
れない。窓から外を見ると、雪がシンシンと降り積もって
いる。



Feb/1 (土)

05:00=起床 05:30=モーニングコールあり

06:20=1階サロンに朝食に降りると、先に田中さん・遠藤さんが朝食中である。昨夜
の山本教授からの電話の件をお二人に報告する。加えて、昨日の喜びをポーツマス市に対し、
日本の社会福祉協議会へのお礼寄付みたいな型で受け入れてくださる所はないか、田中さん
に尋ね指導を受ける。2日分のチップにと枕元に\$2置いて退室する。

ホテルロビーで土産にスプーン(@\$2.5)を購入しようとして、25個あったらわけて
くださいとの注文が@\$2.5×25個と紙に書いて提示しても通ぜずテンテコマイ。訪米
経験豊富な田中さんに登場していただき1・2・3……25のジェスチャーでようやく意
味が通ずるが、品物がないということ。皆から「×」までは良かったが25個の「個」は判
らないでしようとはヤカされる。

07:00=フォーレイ市長とお嬢様のメアリー嬢が見送りのためホテルに。日本円で25,
000円(\$≒200)をホテルの封筒に入れ、寸志ながらポーツマス市の国際交流基金の
一助としてお使いくださいと渡す。

07:30=フォーレイ市長の見送りを受け、添乗員さんの出迎えの車に乗り込もうとする
と、ホテル入口に設置してあるポーツマス Herald の新聞自動販売機のガラスの向う側に見



慣れた自分の横顔写真が。小銭を皆で出し合い5部同新聞を記念にと購入する。記事は1面にプロッサー氏と自分が刀を受け渡して握手をしているカラー写真(左写真)。車中で遠藤さんに記事の概要を紹介していただくと、見出しは「友情のシンボルとして刀返還」と書いてあるとのこと。皆から「桑原さん 間違っても日本で1面にカラー写真で紹介されるようなことはないですかね?!」と冷やかされる。車窓から見えるボストンへの風景は、昨夜の積雪でなお一層神秘的な景色に見える。

09:00=ボストン空港着。空港内売店で息子への土産としてハーバード大学のTシャツやバッジを購入する。

10:10=ボストン空港離陸

11:10=ニューヨーク空港着(ニュージャージー州にある

NY空港) 空港には、田中さん・遠藤さん顔馴染みの金子添乗員の出迎えがある。中型バスに乗り込みシェラトン・シティ・スクワイアーホテルへ。車中では、必読「ニューヨーク滞在中の防犯マニュアル」についての説明がある。ホテルは(7番街・アベニュー/52丁目・ストリート=アベニューは東から西へ数字が大きくなり、ストリートは南から北へ数字が大きくなる) 部屋は一応1, 221号室。遠藤さんの案内でキャットの横にある日本料理店「いろは」で天ぷら定食(\$17)とギョウザをいただく。世界の大都会ニューヨークだけあって、高い建物と人の多さが目立つ。案内の遠藤さんにはぐれないよう後ろを付いて回る。

①聖パトリック寺院 ②サックス高級デパート ③トランプタワー ④世界の玩具を販売しているシュワルツ ⑤セントラルパーク ⑥ブラザホテル

17:00=一応のニューヨーク探索が済んだところでホテルに帰着。しかし、トラブルの三人分のベッドがまだ準備されていない。各人のベッドが決まらないうちに、旅装を解くわけにはいわず困るが、ホテルのロビーに英語で苦情を入れたくても我が三人の間には、それ程の英語力のある者は?いないし。それではと今回のツアー引受け先のANAニューヨークの担当者に電話で苦情を入れることに。何回かANAのお嬢さんに電話を入れるうちに、対応に対する結果報告が直ぐにないのが頭に来、ニューヨークに来ていることを完全に失念してしまい、苦情が鹿児島弁で即射砲となって出てしまう。同室の田原・須志田さんから「今の電話でのやりとりを私たちにも判る青葉で説明して下さいますか?」とのチャチャ入る。苦情を受ける電話先の彼女は、「お客さまの言っておられる言葉の意味が判りません」との応答はないのに、隣の皆さまにも判らない青葉で話していましたかと大笑い。

18:10=ようやく、1, 736号室に移され、簡易ベッドも搬入され一応ベッド問題は解決する。

※トリプルの部屋というのは、2ベッドの部屋に1簡易ベッドを設置するということであつたらしいが、最初の部屋には、その簡易ベッドが入るスペースもなくてのトラブル。

18:30=先程までのベッド問題のトラブルを忘れるかのように日本料理店「しん和」で楽しくステーキをいただく。(1人当たり\$28) 同席でポーツマスのフォーレイ市長のあだ名は『ネバーセイノーメイヤー』(絶対にNOと言わない市長)と呼ばれ、住民から全幅の信頼を受けている市長であるとの話しを聞く。徒歩帰りのニューヨークの夜の街、ビル風で耳が非常に冷たく感ずる。ホテル帰着後、反省会を実施。

Feb/2(日)

05:30=起床。だいぶ時差にも馴れてきたみたいで長く眠れるようになる。

07:30=ホテル内ロビーの食堂『ビストロ』でアゲハンの朝食をとる。ウェイターの説明によると、昨日は50名近くの日本人が同食堂に来たとのこと。ホテル内の高い食堂を利

用するのはもっぱら日本人だけで、他国の人は、安価なホテル外で食事を摂っておられるとか。

09:00=出迎いのバスでニューヨーク半日見学に出発。車窓からセントラルパークを右・左に見たり、大きな建物を下から見上げながらのバスの旅。木々には、ゴミ収集がニューヨークでは経済破綻でまともに行われていないとかで、木々には、ビニールがひっかかっているのを見る。エンパイア・ステート・ビルは、あまりにも高すぎローアングルから構えても我がカメラには被写体として入りきらない。ハーレムは、建物の壁に落書きをしてあるのが目立つ程度であった。中華街は、非常に活気が見受けられた。世界経済の中心街ウォール街は、日曜日とあって閑散としている。

しかし、日本人の観光客だけはいる。マンハッタン島最南端にあるバッテリー・パークでは、自由の女神をバック遠景に入れ記念写真を撮る。なお、同公園では可愛いイリスの姿を見かけた。

昼食は、イースト川沿いの大型ショッピングセンター『ピア71』内の中華料理店で、焼きそばをいただくが日本の二人前の量でようやくたいらげることができた。同ショッピングセンター前には船の博物館があり、帆船等を係留してあった。日本人向けファッションデパート『マキ』前で全員観光バスから下車。家内向けの皮製品の土産を購入する。買物にも飽きたのでNY探検のためホテルまで単独行動で徒歩で帰ることにする。しかし、帰路のコースを完全に間違え、逆の方向に進みハンブル文字の見える通りまで進んでしまい、間違いに気づき慌てて逆方向に進路を修正し、ようやくホテルまで帰る。この迷いの中、この私に道を尋ねる外人さんがありビックリ。褐色のニューヨーク子？と見たのか、何国人？と見たのか不明。

再度ホテルを出て周辺の店で単独買物に挑戦。ただし入った店は、日本人の店『オカダヤ』小物の土産品を購入する。同店はTAX（州税約1割・NYが一番高いとか）が内税となっており買いやすかった。

17:30=ロビー集合。タクシー2台に分乗し、寿司店『山口』（板さんは鹿児島島の川内に行ったことがありますよという人）に出かける。帰りには韓国人店員のドラッグストアでアルコール・ツマミを購入し、米国最後の夜の反省会をホテルの部屋で実施する。これまでの珍道中を酒の肴に楽しい反省会となる。田中さん・遠藤さんが退席されたあと、田原・須志田・桑原の行政マン3人で行政反省会を引き続き実施する。米国での垢を落すため熱いお湯をためたバスに入り、ゆっくりと休む。

Feb/3 (月)

05:20=起床。自分の起床を待っておられたかのように田原さんがパット起床される。トランクへの土産品詰め込みに励む。

07:00=ホテルカウンターでのチェックアウトを済ます。田中さんから日南市に電話を入れたら、共同通信配信で日本刀返還の記事が全国紙にも掲載されており、成田に着いたらインタビュー責めに遭い大変だよと脅される。

07:50=50人乗りの大型バスに乗り込みケネディー国際空港へ向け出発する。ルーズベルト島をまたぎ架かっているクインズポロ橋上の車窓から見る国連ビル・摩天楼は写真で見るとより一段とすごい。空港に着くと、同空港のANA事務はデルタ空港が代理で行っており、空港カウンターで荷物を託す。軍刀はナイフということでOK。まだまだ出発までは時間があるので、空港内の免税店で我が家の女性たちから依頼の化粧品を買い求める。最後の土産買いが済んだ所でドラッグストアで\$4.47（パンとコーヒー）の朝食を摂る。

日本からのANA便の到着が遅れ、ANA009便は定刻よりも40分遅れて11:45ニューヨークケネディー国際空港を離陸する。機内は、米国に来る時以上に込んでおり、自分の60A席は後部の2人掛けの窓際の席なり。12:40=カレー味の昼食が出る。赤ワインを睡眠薬がわりにと1本いただく。スチュワーデスの浦川嬢にポーツマスヘラルド紙を渡

し、自分の記事が掲載されているが英語が判らないので日本到着までの間に翻訳してもらえませんかと相談する。

広大な湖オンタリオ湖上空を飛行する。先程いただいた赤ワインを口にしたので、食後放映のビデオ2本もいつ放映されたのか判らないまま寝込んでしまう。忙しい機内サービスの間を割いて一生懸命翻訳してくださったようで、浦川嬢から「先にお客さまから相談のありましたお客さまのことを書いてある新聞翻訳が、直訳中心ですができました。なお、直訳ですので、不明な箇所がありましたら辞書をお持ちしますが」とANA便せん3枚に書かれた訳文をいただく。猫に小判の英語辞書であるので、「いえいえ大体的内容が日本に付くまでに判れば結構なのですから」と辞書の提供は辞退する。

同訳文を読みながら、人と人とのお付合・身で持って体験した国際交流の有り難さ、また多忙な機内勤務の傍ら狭いキャビンの中で、お客さまからの新聞翻訳依頼に嫌な顔せず精だしてくださったスチュワーデスの浦川嬢に感謝し、今後の我が人生親について考えさせられる帰国便の機内であった。

Feb/4 (火)

機内案内放送で、日本時間2月4日午前9時32分になりましたとの案内を受け、時計を修正する。しかし、食べて寝てばかりでまともに運動のできない機内ほどしんどいものはない。

12:40=昼食が出る。15:30=新東京国際空港に無事着陸する。荷物引渡し場所にて、このまま羽田に直行し宮崎にお帰りになる田中さん、須志田さん、遠藤さん、東京に帰られる田原さんに草々の御挨拶をして別れ、入管審査を受け、問題の税関に。携帯品申告書に銃砲刀剣類1振り持参として提出。カウンターの税関吏員が横のボタンを押されると黄色のランプが点き、左側から二人の税関吏員が走ってこられ、別室にと案内される。申告書に記載の物を提示し、持参の『文化財保護提要』中の「銃砲刀剣類所持等取締法第3条及び第25条の項」を提示し、同条該当で亡父の日本刀を持参しており、川内警察署から鹿児島県警を通じ成田署にも連絡済みのはずと申し出る。税関から警察に連絡を取りますので、待ってお待ちくださいと椅子を勧められしばらく待つと、私服のお巡りさんが。先に税関吏員に申し述べたことを再度申し述べると、本署と連絡を取ってみますとのことで、鹿児島県警からの事前連絡が確認され、引渡し書類記載に必要なため刃の長さや銘の確認をすることになったが、目釘は取れるが柄の内部が錆びているようで茎の銘は確認できないまま、銃砲刀剣類所持等取締法第25条第3項第2号による仮領置からの引渡しを受ける。この亡父日本刀国内持込みのために税関・警察官の調べに要した時間が40分かかり、出国ゲートを出ても出迎えの家族の姿が見えず、空港案内で放送をしていただくことにする。案内嬢が放送中に家内が余りにも遅いので心配していたと義妹とかけつけてくる。

16:50=家内の妹の嫁ぎ先の高橋宅に到着。(空港から約30分の距離なり)家内が鹿児島から持参の2月2日刀返還の記事を掲載した、南日本・西日本新聞に目を通す。鹿児島川内の母に電話を入れ、無事成田に着き義妹宅に到着した旨を伝える。

18:10=今日鹿児島川内では、永年勤続職員表彰を受けた市役所同期の仲間達が、食堂園で飲み方をしているはず。同会場に電話を入れ前田会長を電話口に出し、千葉の地からお祝いを述べる。

文化庁 HP/銃砲刀剣類所持等取締法

http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxselect.cgi?IDX_OPT=4&H_NAME=&H_NAME_YOMI=%82%a0&H_NO_GENGO=H&H_NO_YEAR=&H_NO_TYPE=2&H_NO_NO=&H_FILE_NAME=S33HO006&H_RYAKU=1&H_CTG=12&H_YOMI_GUN=1&H_CTG_GUN=1

(本邦に上陸しようとする者の所持する銃砲又は刀剣類の仮領置)

第二十五条 銃砲又は刀剣類を所持している者が本邦に上陸しようとする場合においては、上陸地を管轄する警察署長は、内閣府令で定める手続により、当該銃砲又は刀剣類の提出を命じ、提出された銃砲又は刀剣類を仮

領置するものとする。ただし、その者が第三条第一項各号の一に該当して当該銃砲又は刀剣類を所持することができる場合及び仮領置しなくても危険がないと認められる政令で定める場合は、この限りでない。

2 前項の規定により銃砲又は刀剣類を仮領置した警察署長は、当該銃砲又は刀剣類を所持していた者から次項第三号又は第四号に該当する旨の申出があつた場合において、その出入国港の所在地又は積出地が当該銃砲又は刀剣類を所持していた者の上陸地と異なるときは、その出入国港の所在地又は積出地を管轄する警察署長に仮領置した銃砲又は刀剣類を引き継がなければならない。

Feb/5 (水)

00:30＝義妹と家内からは、疲れているのだから早く床に着くよう勧められるが、時差ボケで眠くなし。義妹の旦那秀彰さんが帰って見えたので、話しがまた弾む。

01:40＝床に着く。08:00＝起床。

09:00＝厚生省援護局業務第二課第五資料係に電話を入れ、昨年9月に亡父の軍刀が米国にあり返還したいという話があると伝えてくださった土元氏を電話口をお願いするが、係が変わっておられるとのことで別の人が電話口。土元氏への電話用件をお話すると、「先日新聞に記事が掲載されていた方ですね。本当に良かったですね」と喜ばれる。土元氏へのお礼伝書と併せ、米国で確認してきた短剣の高橋優大佐遺族の住所確認と住所が判明したら宮崎日南市への連絡をお願いする。宮崎県日南市役所の川嶋総務課長補佐に電話を入れ、昨日無事帰国を報告し、田中さんの会社の電話番号を聞く。田中さんの会社に電話を入れると、昨夜遅い時間の帰宅にも係らず、早速仕事にでておられびっくり。人の上に立ち・成功する人は日々が違くと敬服しつつ、昨日の別れの際の非礼を詫びつつ、税関を無事軍刀が通過したこと、厚生省に高橋さんの遺族確認をお願いしたことを報告する。

09:40＝義妹の運転する車で、千葉県栄町にある体験博物館「房総のむら」と「房総風土記の丘資料館」、そして佐倉市にある「国立歴史民俗博物館」の見学に出発する。この見学は、平成4年度の職員研修当初予算で要求したものの、旅費予算が付かなかつたため、今回時差ボケ休養で併せて研修見学を自ら実施することにしたもの。千葉県内は、博物館ネットワークが整備されており、各館ともそれぞれのテーマを掲げ、内容の充実した展示を行っており、終日非常に有意義な研修見学ができた。

Feb/6 (木)

12:30＝ANA625便にて家内の弟で警視庁勤務の義弟：高久夫妻の見送りを受ける中、羽田空港を出発。軍刀については、羽田の空港カウンターで銃砲刀剣類は、別枠受付となり鍵付きの厳重なジュラルミンケースに。

14:30＝鹿児島空港着。荷物引渡しカウンターでは、軍刀の入ったジュラルミンケースの鍵開けに周囲のお客さまの注目を受ける。15:00＝空後発～川内への直行バスに乗り込む。16:35向田バス停で降り、タクシーを呼び川内警察署へ直行。タクシーを待たしたままで、家内と警察署2階の防犯裸に。一昨年の暴力団追放市民防犯パレード実施の際に顔見知りとなっていた黒木課長代理がちょうど在室であったので、成田署への連絡に対するお礼を述べるとともに、早速「刀剣類発見届」をする。発見場所と動機の記載に疑問があったので、県警に照会を入れてもらい確認を願う。発見場所は自宅・動機は米国から返還でOKということで、同発見届済証の交付を受け退署する。

17:05＝ようやく自宅に着く。隣家の母が帰りが遅いのでと心配し玄関を開け待っていた。隣地の母宅の霊前に軍刀とポーツマス Herald 紙を挙げ、軍刀返還と無事の帰国を報告する。

17:40＝自宅にて旅装を解きお茶飲んでいると、白川川内東京事務所長から電話で、田原日南市東京事務所長から土産の時計をいただいた旨連絡有。ちょうど田原さんが来所された時、外出先から下青木秀吉三州倶楽部会長と事務所に帰り付いた所で、秀吉さんはお前の親戚とか「新兵衛さんの軍刀が米国から……」と話しが弾んだ旨の報告に加え、田原所長

から「川内の桑原さんという方は、豪快な方ですね！」との報告もあったが、また例の調子で何か仕出来したのかとの？も。

18：20＝下台に居る従兄の桑原教育委員長が、叔父さんの刀を拝見にと来宅あり。母宅霊前に案内し見ていただく。

19：00＝風口の本家・東田成己従兄宅と隈之城の病院の叔母宅を訪れ、留守中の母に対する心遣いに感謝し、帰国報告をする。

Feb/7 (金)

昨夜、蓮香秘書係長と連絡をとっておいた仁礼川内市長との面会の件で、市長選挙告示を翌日に控え、机に向かう時間が無いという市長をようやく捕まえることができ、11：10から面会。フォーレイ市長から預かってきた土産を渡し、持参の軍刀・新開でポーツマス市での歓待の様子を手短かに報告する。蓮香係長を呼び市長への報告スナップ写真を適時撮ってもらう。

市長室から退室後、前の職場秘書広報課広報係を訪れ、プロッサー氏から預かってきた写真の少女消息確認広報について、川内記者クラブでの記者会見日時設定について、担当の道場主事に幹事社との協議を依頼する。沖久教育長に帰国報告をすると、非常に貴重な体験をしてきたのだから教育委員会職員に報告をと、事務局職員に招集を命ぜられ、事務所中央で帰国報告をさせられるはめに、その足で元上司で仲人でもある森収入役を訪ね帰庁報告をする。13：30を過ぎてからようやく歴史資料館事務所に帰り着く。

19：30＝今月の川内記者クラブ幹事社である読売新聞記者の日高さんから電話があり、水俣病訴訟判決の取材と川内市長選挙取材のため各社多忙なため、申込みのあった記者会見を、2月10日午後1時からと設定した旨の連絡。記者会見申込みの概要を説明し協力を相談する。

Feb/8 (土)

海兵57期亡父同期生で、鹿児島県内唯一人の生存者である、鹿児島市の前田一郎氏（昨年9月母に亡父の軍歴等を最初に確認接触を取られた元衆議院議員堀之内久男氏の海兵時代の教官でもある）から電話があり、今からクラスメートの軍刀に面会に行く旨一方的電話が。前田氏の海兵教官時の教え子で市内鳥追町におられる小杉氏に連絡を取る。「足が弱まっているという前田教官から鹿児島市から出てこられるとの連絡がありましたが、何時の列車・バスか不明。言い出されたら絶対相手のことはおかまいなしで聞かない民俗の海兵出の人たちであるので、鹿児島の自宅に連絡を取り、駅 or バス停留所からの送迎足の確保を相談」し快諾を得る。

11：30＝西田写真館にプロッサー氏から預かった写真を持ち込み、記者会見で配付するための写真としてトリミング複写を依頼する。

小杉氏の車で13：20前田氏到着。歴史資料館会議室で軍刀を見ていただき、第5特攻戦隊司令部の組織表から、高橋大佐の生存・遺族の有無と、他の参謀連の生存の確認を相談。母宅霊前にも案内する。前田氏の来宅は、亡父逝去年の昭和46年以来であり、21年ぶりの訪問ということになる。霊前での前田氏の思い出話によると、昭和40年代始め、クラスメートとして会おうではないかとハガキを出したが、今は会いたくないというつれない返事をくれた、同じ海兵の飯を喰い弾の下を潜ってきた仲間として、会って話しをするぐらいは良からうに、何のわだかまりをもっていたのか、皆ゼロからのスタートをしておいたのに……。

Feb/9 (日)

10：00＝小杉氏から電話。「前田教官と昨夜電話連絡を取り合い高橋大佐の御遺族の住所を調べましたところ、本人は昭和62年に逝去され娘婿さんが神奈川県川崎市麻生玉禅寺に。司令部参謀の生存者は、砲術参謀の豊島少佐だけで香川県善通寺市」にとの連絡がある。

12:50＝日南市の田中さんに電話で高橋大佐の御遺族の件で連絡を入れた所、調査が先行していたようで御遺族との連絡も取れ、関係者が米国のフロリダにお住まいであり、5月期の返還には立ち会っていただけるようですとのお知らせを聞く。

Feb/10(月)

13:00＝市役所4階の記者室でプロッサー氏から預かった写真等資料を配付し記者会見を実施。出会記者は、朝日・琉売・毎日・西日本・南日本・鹿児島新報の新聞加盟6社全員。元記者クラブ担当の係長だったのに、なぜ無断で米国に刀受領に行ったのか。行く前からがよい新聞ネタになったのに、地元記者クラブ軽視だとのまずお叱りを受ける。川内記者クラブの財布の中身を知ってるが故に、事前に説明して行くと賤別をくださいということになり、皆さんにいらぬ心配をかけるからと、話しを笑いでそらし本題に。それにしてもAP共同配備で記事が送られてきた際、各社デスクから身元・年齢等の確認を求められた、川内の記者の皆さん、あの桑原が何時の間に米国へとビックリしたとのことで、なぜ事前連絡をしないままでとの小言になったらしい。

しかし、昔の仕事仲間であり、親身になった取材を受ける。明日以降の朝刊が楽しみであり、一日も早く写真の少女が名乗り出てくれることを希望する。

記者室からの帰り、亡父の川内中学の後輩に当たる菟迫助役に呼び止められ助役室で持ち帰ってきた軍刀を紹介。助役は戦前、亡父が母校：川内中学を訪問の際、朝礼で、「後輩の諸君、勉学に勤しみ体を鍛え海兵に進め」との講話と校庭の鉄棒で大車輪の技を見せていただいたとの話を。

14:00＝馴れない旅の疲れがついに出了らうと、風邪をひいたようである。従兄の隈之城の病院を訪ね内科医の従兄不在なれどポケベルを鳴らしてもらい電話診察で、看護婦さんに風邪の注射を打ってもらい帰宅。床に着く。

Feb/13(木)

歴史資料館運営協議会委員で市の文化財保護審議会委員でもある、本市では日本刀に一番造詣の深い西木場氏に来館を電話相談し、歴史資料館に寄贈するためにも軍刀の銘等確認鑑定をお願いする。柄内が錆びているようであるので目釘を外し、油を数的注ぎ入れてもらい、茎の銘を確認していただく。刃渡り72.4釐 表銘＝越前住康継 裏銘＝以南蛮鉄作之で、江戸時代の作。宮之城から購入したとのことであるが、参勤交代で江戸表に出仕した武士が、江戸もの刀として購入してきたものであろうとの鑑定をいただく。

Feb/14(金)

南日本新聞の大武川内支社長来館され、まだ少女からの名乗りでないかとの確認を受ける。

Feb/15(土)

西日本新聞の大分総局長で中・高校の1年先輩に当たる川野先輩から「桑原君 君は我が社の新聞を独占しているが何事か？」との電話がある。いつまでたっても西日本新聞には、記事が掲載されないが妹尾記者は原稿を送ったのかと心配していたら、西日本新聞は、今朝の朝刊にプロッサー氏から依頼の写真の少女消息確認の記事を掲載してくれたようである。それも九州版であり、川野先輩からの情報では、この面は、福岡地区では夕刊にも掲載される面とか。もし写真の少女が鹿児島県外の九州内にいてくれたら、この記事をぜひ目に留めて欲しいと願う。以前、川内にいた、現西日本新聞別府支局長の永尾氏からも新聞見たよとの電話がある。

Feb/16(日)

我がボスを選ぶ今日は川内市長選挙の投票日。事務所職員には、旅行記の原稿整理が済むまでは、他の原稿執筆はしない旨宣言し、原稿整理に没頭。

21:50＝仁礼市長が三選されたとのテレビテロップを、自宅テレビで横目に見ながら、旅行記の編集に励む。

Feb/18 (火)

田中さん・田原さんからは、既に旅先での思い出の写真も届いているのに、我が原稿書きは、めったにひかない風邪をひいたため遅々として進まず申し訳ない。

この旅行記と一緒に写真も送りますので今しばらくお待ちくださいと言いながら、今日は休館日であるので、書斎にとじこもり朝から終日原稿整理に励む。

Feb/24 (月)

先日依頼のあった電話インタビューMBC（南日本放送）ラジオ「澄本禎子のほのぼのワイド／ハロートピックス」への声の出演の日である。家族からは、何時もが早口だからゆっくりおちついて、ニューヨークでの失敗例もあることだから、共通語で話すようにとのアドバイスを受け出動したが、MBCから電話のかからてくる12:33を前にどうも落ち着かず、水をコップで2杯も口にする。それでも落ち着かずタバコが自然と口元。今日は、午後休館日であり、事務所内には係長しかいず、静かすぎなお一層緊張は頂点に。

12:34＝放送局から電話が入り、「このままでお待ちください」と、受話器口からは韓国人の歌が流されているのを聞きながら待たされる。

12:36＝本番、澄本アナウンサーから「そちらも、今日は風が強いですか」との時候の挨拶に続き、「終戦当時の写真の少女を捜しているとお話を伺いたい」との設問を受け、これまでの日南市の皆さんとの渡米の経緯を説明する中、新聞報道がなされてより13日も経過したけど、一報の連絡も無く苦悩しているとの心情を受話器に向かって話す。少一人で長く話すぎたきらいもなきにしもあらず。46年という時間の経過を越え、ぜひ思い出して名乗りでるなり、情報の提供をと最後はお願いし、電話インタビュー終了する。終了時は12:41であるから5分間の生放送インタビューに耐えたことになる。

休館日の午後を利用しての2カ月に1回の定期清掃のため、ビルサービスのオバチャンたちが、椅子の片付け等を始められたので、掃除の邪魔にならないよう、14:00からの本庁教育長室での定例の教育委員会に事務所を出かけようとした13:10。机の電話が鳴り受話器を取ると、「先ほどMBCラジオで放送があったそうですが、写真の少女の件では、他からは何らの情報も寄せられていないのですか？」と尋ねる中年の女性の声。「いえ、それが1件もなく、先ほどもラジオのインタビューを通じ情報の提供をとお願いしたところですよ」と電話の女性に伝えると、「実は、直接ラジオは聞いてなかったのですが、お友達から電話があり、貴方がこの前言っていた写真の少女の件で、先ほどラジオ放送があり、まだ誰も名乗り出ていないそうよ。貴方は自分に似ていると言ったたでしょうが、早く連絡をしてあげたらとのお友達からの電話があり、そのお友達の方が、放送局に電話を入れて下さってお客様の電話番号を開いて下さったので、お電話をいれました。」と。「本当に名乗り出て下さって有難うございます。自分としても友情のシンボルとして、亡父の刀を返還して下さった米国の方の友情に伝えるため、お預かりしてきた写真の少女を一生懸命捜しているところです。明日が休館日ですので、お預かりしてきた元の写真を持参してお伺いいたしますので、ぜひご確認くださいませんか。」として受話器を置き本庁に。

教育委員会の冒頭、先月の定例教育委員会には、私事旅行で欠会した旨お詫びを申し上げると、委員の先生方からは、亡父の刀が帰ってきて良かったですねとの発言に恐縮する。しかし、今日の教育委員会も、歴史資料館の管理運営規則の一部を改正する規則の制定についての当方が提案した議案審議もあったが、それでも延々とした会議で17:00までかかる。事務所に帰り、写真の少女についての消息一報があり、明日鹿児島市内にお住まいのご婦人を訪ね確認することを、川内記者クラブ今月の幹事・読売新聞日高記者に連絡を入れる。帰宅し、家内と母にラジオ放送の効果が早速あり、それらしき方から電話連絡があり、明日鹿児島市の自宅を訪ねる旨を話す。

Feb/25 (火)

休館日でヒゲもまだそらず、ゆっくりしていると08:10読売新聞の日高記者から、今日は向こう様には何時に着かれますか。確認され次第一報をとの電話がある。

09:00=自宅を出発。鹿児島市内までの間は、久しぶりに車中からのJ E 6 S S Yのコールサインで144MHz帯でのモバイル移動のアマチュア無線を楽しみながら328号線経由で鹿児島市鷹師二丁目の昨日のご婦人のお店に、電話で聞いていた『天地堂』という印鑑屋さんは、直ぐに判ったが駐車場が見つからない。車を降り店内に入り、「昨日お電話をいただいた川内の桑原と申します。早速訪ねて参りました。車で来たのですが、駐車場がありましたら」と乞うと、前のタイヨーの駐車場を紹介していただき、車を移動させ、早速、持参したプロッサー氏から預かってきた写真を見ていただく。報告が遅れたが女性の名前は、岩城 幾代（イワキ イクヨ）さん（昭和11年11月3日生=55歳）である。岩城さんは、写真を持って川内から自分が来ていることと、一緒に写真の確認を、昨日MBCに電話を入れてくださった友達の吉田順子さんと、三男で大学1年生の息子さんに電話連絡を。息子さんは、岩城さんの小学6年当時の写真等を持参して見え、一緒に確認。プロッサー氏から預かった写真の少女は、写真撮影に当たり緊張して口を一文字に閉じておられ、口元から



顎骨については、小6当時の写真では、似ている点は確認できなかったが、目・鼻だけは類似している点を確認した。

加えて、2月11日の新聞報道があった時点で、記事を読む前に新聞の写真を見てあれ自分の写真かと思ったという第一印象と、現甲南高校（元2中）が、米軍に接收されており、近所に住んでいたため米軍兵を見ると「チョコレート クダサーイ」と言ってチョコレートをおねだりしていたとの思い出。米軍

兵に可愛がってもらい一緒に写真を撮った（写真の少女の横に写っている米軍将校までの記憶はないが）思い出はある等々のお話を伺う。

以上の点により、プロッサー氏から預かった写真の少女は、岩城 幾代さんと断定し、岩城さんより電話を借用し、読売新聞川内通借部の日高記者にその旨を連絡し、プロッサー氏に送るためにと岩城さんに写真の撮影（左上写真）を相談する。

なお、岩城さんは、今年米国のお友達の所に、旅行の計画をお持ちとか。できればプロッサー氏に会って見たい、またそれが旅行日程の都合で不可能な場合は、電話でも入れてお話をしてみたいとの希望を持っておられた。写真撮影等も済み談笑するなか、自分が持参した米国で撮影した写真を見ていただく。お昼の時間帯となったので失礼することにする。「本当に名乗りでくださって有難うございました。これでようやく自分のプロッサー氏への友情の証としてのお礼が果たせました。これをご縁によりしく願います」として辞する。

その足で、昨日ラジオ放送してくださった「ほのぼのワイド」の担当の方にお礼を青いたいとしてMBC放送局を訪れ、受付で担当者への面会を申出る。

ラジオ局放送制作部専任部長の米田氏が出て見えたので、来局の目的を伝えお礼を申し上げる。できるものなら先日のラジオ放送が契機となって写真の少女の名乗りでもあったので、放送をしてくださった澄本アナウンサーと放送室の写真を撮って、米国のプロッサー氏に送りたい旨ズズウしく相談すると、快諾していただき、澄本アナウンサーを放送室に呼んでいただき、放送の様子を復元してもらい写真を撮影する。（左写真）



15:30=川内に帰り着く。岩城さんからぜひ匿名でとのことであったので、新聞各社を回り、この旨を相談して回ることにする。幹事社の読売新聞・日高記者宅を訪ねこの旨を相

談すると、プライバシーとの関係がありそれでいいのではとの了解をいただく。次ぎに訪れた南日本新聞川内支社では、大武支社長が本社社会部からあなたの指名手配があり捜索中であつた。本社社会部記者と直接電話で話しをしてくれと電話器を渡され、社会部記者から今日の岩城さんとの面談の様子の取材を受けるはめに。西日本新聞・松尾記者、朝日新聞・河野記者宅をも順次訪問し、今日の鹿児島市での面談の様子を報告し、ぜひ匿名での報道をとお願ひする。

17:30=ようやく自宅に帰り付き、結果を家内と母に報告する。77歳の母は、写真の少女・岩城さんと面会ができたのも何らかの亡父のお導きであるとして、早速仏壇に報告・合掌を。

Feb/26(水)

南日本新聞と読売新聞が、今朝の朝刊で「元米軍大佐が捜していた、写真の少女見つかる」との見出しで報道が。

職場の朝会では、米国訪問後の宿題がようやく解決できた旨を報告し、職員へお礼を述べ。本庁に出向くと、会う人ごとに「よかったですね。写真の方が判ったようで」と声を掛けられ恐縮する。

午後、歴史資料館研修室での広域圏会議に市長代理として訪れた萩迫助役からも、「写真の方が見つかったようだね」とのお声かけある。係長には、亡父の日本刀返還記事報道以降「歴史資料館の特別展等PRすることが無いときは、つなぎとして自分の話題で川内市歴史資料館を啓発しているのだから」理解をと無理強いすると、「皆が言ってますよ、館長は、広報畑出身だけあって、マスコミ向けの話題を事欠かさず、よく持っておられると感心していますか?!」と皮肉られる。その次の歴史資料館の話題は、3月21日からの「郷土の芸術家たち」コーナー新設と、4月1日からの市内小・中学校児童・生徒の入館料無料化しか無いが?。マスコミ各社にだいぶ貸しができたようだ。

21:00過ぎ、写真の少女が判明したことを自宅から米国のニューハンプシャー大学の山本教授の所に国際電話入れ報告しようとするが、大学・自宅ともつながらぬ。

Feb/27(木)

今日は、歴史資料館運営協議会の委員の先生方を引き連れての、鹿児島市の黎明館と市立科学館への先進博物館の研修視察。委員の先生方からも「館長、良かったですね」とのお言葉をいただく。黎明館研修後時間があつたので、皆さんと城山に登り、城山からの桜島展望を楽しむ。46年前にプロッサー氏が錦江湾に帰港した当時は、焦土と化し荒廃していた鹿児島市も今では50万都市となり、ビルが林立しているが、変わらず噴煙を吐くのは桜島のみか。

アマチュア無線用の国際時計を見ながら、米国は午前11時ごろとして01:00、再度山本教授の所に国際電話を入れるが、大学の電話交換嬢からは、早口の英語で何かを問われるが意味が不明。多分に内線番号を問うているのだと思うが、名刺には内線番号は記してないし「プリーズ ユタカ ヤマモト プリーズ ユタカ ヤマモト? アイムソーリー アイミスッド ルームテレホンナンバー アイカヤノットスピーク イングリッシュ!」と言って電話を切る。

ああ、国際電話は難しい。しかし、これでよく米国を金魚のファンながら旅行してきたものと、我ながら不思議でならず、またこの少女の消息確認の一報を電話で伝える術を持たずアーはがゆきかな。

19:00から川内高校卒業25周年の同期生会第2回打合せ会を開く。出発前の第1回打合せ会の際、訪米することを各クラス幹事には報告しておいたが、皆から「道男 よかったな! ワヤ英語はカタヤデケタッカッ(=君は、英語を話すことはできたかね)、「桑原さんあんたの新聞記事を子供に見して、この写真の人、お母さんと同級生よと紹介し。子供と一緒に新聞読んだわよ」等の、同期生として飾り気の無い喜びの言葉をいただく。

Feb/28 (金)

年休を取り、川越日南市長へ面会・お礼宮上のため日南市に。車の後部席には、居眠り運転防止対策にと家内を乗せ10:00自宅を出発。今回は、始良インターから高速に乗り、宮崎市まで行き国道220号線を南下するコースを採る。13:00日南市役所に到着。階段を昇り2階の市長室に向かうと2階踊り場に川嶋補佐が到着を待っており、案内され市長室に入ると、田中さんと総務課長が待っておられた。川越市長との名刺交換後、お礼の訪問が遅くなったことを深くお詫びし、今回の亡父日本刀返還に寄せられた日南市の並々ならぬ協力に感謝しお礼を述べる。持参した写真で米国ポーツマス市での歓迎の様子と、プロッサー氏からの日本刀返還の様子を、持参していた軍刀を市長にお渡しし報告する。併せて、プロッサー氏から預かってきた写真の少女が鹿児島市に健在で、マスコミの協力を得てようやく25日に本人に面会し確認をとることができ、日本刀返還に対する自分の友情の証を立てることができ、また本日ようやく川越市長に面会しお礼を述べることができ、ようやく我が使命を達成することができた旨、正直な我が心情を報告する。同席の皆さんからも、「本当に桑原さん良かったですね」と喜んでいただく。途中から、MRT（宮崎テレビ）のカメラ取材がある。市長からは、日南市のような外交史上の姉妹盟約の例は、国内に無く、外務省も一生懸命応援してくれているとの話しが、3月には今回の訪米団5名の会『友情の刀の会』を、3月議会で田原東京事務所長も帰庁されるので、12日過ぎに市長を招いて開催しようとして田中さんから提案もあり、快諾する。今回の訪米に際し、日南市から私のために寄せられたご支援に感謝する意味でお礼として持参していた「小村記念館建設寄附金」を市長に渡し、国際交流センター小村記念館開館時にもしよかったら、小村寿太郎翁の取り持つ縁で返還された亡父の日本刀であり、ぜひ展示活用してもらいたいと申し出る。市長・田中さんから、あと1振プロッサー氏が持っておられる松本大佐のご遺族の消息も判明したので、同短剣の返還は、5月に南郷・北郷町とポーツマス市との姉妹盟約締結時に、再訪米するので、その際プロッサー氏に出会っていただき返還式をとスケジュールの中で考えているが、鹿児島市の写真の少女の同行は如何かと尋ねられる。田中さんからは「元気でいたらぜひ会いたい」ともプロッサー氏は言っておられたが、日南市の国際交流にご理解いただけるようだったら、写真の女性と一緒にポーツマス市へと伝えて欲しいと頼まれる。写真の女性も年内に米国旅行の計画を持っておられるようであり、帰川後連絡を取ってみることで回答を保留させていただき13:55委員会が開催されるとあって市長離席される。他の同席の皆さんにお礼を言い、退室する。

17:05＝事務所に帰着。留守中の決裁文書に目を通してしていると、鹿児島市の岩城さんから電話が入り、先日の新聞報道での匿名掲載に感謝のお礼とともに、写真の少女と名乗ったが心配が残り、小学生時代の恩師の消息を尋ねて回ったところ、近所に小学1・2年生時の恩師が生存しておられることが判り、写真を持参して確認を求めたところ「この写真は、あなたじゃないの」との確認を得た旨の報告が。先日の面会時に、第三者の確認が一番との私の話しに、恩師を捜し当て、確認をしてくださったようであり、多忙なご商売のなか岩城さんの確認行動にただただ感謝するのみ。

今日、日南市に出向き、今帰り着いた所であるが、5月に一緒にポーツマス市に行きませんかとの話しがあった旨を伝えると、お店の関係で子供が店番を交代して手伝ってくれる5月の連休を利用して訪米したい。日南市から聞いた話しは、5月中旬であるが、できるものなら一緒にいていただきたい旨の話しがあったことを伝える。

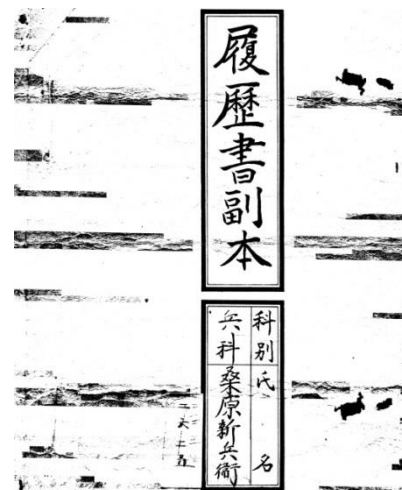
Feb/29 (土)

今月も今日まで。25日お礼に訪れたMBC放送局の澄本禎子アナウンサーからお手紙をいただく。まだ無理を言って撮影した写真もお届けしてないのに恐縮しながらお手紙を読む。「毎日色々な話題をお届けしていますが、それが具体的に役立ち、自分のことのように嬉しく思います」との内容。

今回の亡父の日本刀返還 and 写真の少女の消息確認。本当に多くの方の善意のご支援をいただいた。人と人のお付合が近年薄れがちと言われている今日。米国でも日本国内でも多くの方のご支援を得ることができ、まだ我ら地球人は見捨てた者ではない。同じように血液が流れている限りはと再確認し、自分自身も、努めて人のためになることには、積極的に対処しようと思わされた今月であった。

高校受験で多忙という息子と久しぶりに話しをする。先日放送のMBCラジオから送られてきたテープを男同志して聞くと、息子からは、「お父さんも、ラジオでは優しい話し方をするんだね。しかし、良かったね」との素直な感想が。

◆元日本帝国海軍中佐 故桑原 新兵衛略歴
 1908 明治 41 年 11 月 25 日生
 1971 昭和 46 年 7 月 19 日没
 (62 歳)
 従五位勲三等瑞宝章



学歴

大正 10 年 4 月 鹿児島県立川内中学校入学
 大正 15 年 3 月 同 校 卒 業(25期)
 大正 15 年 4 月 江田島海軍兵学校入学
 昭和 4 年 3 月 同 校 卒 業(57期)

<http://www2b.biglobe.ne.jp/~yorozu/sub2-9.html#57ki>

昭和 13 年 3 月 海軍水雷学校高等科学生
 昭和 13 年 11 月 同 教 程 卒 業

職歴等

	昭和 4 年 3 月 27 日	海軍少尉候補生 / 軍艦磐手乗組み
	昭和 5 年 7 月 31 日	軍艦迅鯨乗組
	昭和 5 年 11 月 1 日	軍艦霧島乗組
1930	昭和 5 年 12 月 1 日	海軍少尉
	昭和 6 年 12 月 24 日	軍艦龍田乗組
	昭和 7 年 11 月 15 日	駆逐艦夕顔乗組
1932	昭和 7 年 12 月 1 日	海軍中尉
	昭和 8 年 11 月 1 日	駆逐艦神風乗組
	昭和 9 年 11 月 15 日	軍艦春日分隊長
1935	昭和 10 年 11 月 15 日	海軍大尉呂号 65 潜水艦乗組
	昭和 11 年 11 月 16 日	駆逐艦葵乗組
	昭和 12 年 12 月 20 日	佐世保錬守府第 5 特別陸戦隊付兼分隊長



昭和 13 年 3 月 28 日 海軍水雷学校高等科学生
 昭和 13 年 12 月 1 日 駆逐艦綾波水雷長兼分隊長

昭和 15 年 5 月 1 日 横須賀防備隊分隊長
 昭和 15 年 10 月 15 日 水雷艇鴻艇長
 昭和 16 年 10 月 1 日 駆逐艦松風艦長

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%BE%E9%A2%A8_\(%E4%BB%A3%E7%A5%9E%E9%A2%A8%E5%9E%8B%E9%A7%86%E9%80%90%E8%89%A6\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%BE%E9%A2%A8_(%E4%BB%A3%E7%A5%9E%E9%A2%A8%E5%9E%8B%E9%A7%86%E9%80%90%E8%89%A6))

1941 昭和 16 年 10 月 15 日 海軍少佐
 昭和 17 年 5 月 15 日 横須賀鎮守府付（参謀長承命服務）
 昭和 18 年 6 月 1 日 土浦海軍航空隊教官兼分隊長（甲種飛行予科練習生教育主任）



1944 昭和 19 年 11 月 1 日 海軍中佐
 1945 昭和 20 年 6 月 20 日 第五特攻戦隊参謀
 昭和 20 年 10 月 8 日 佐世保鎮守府出仕（運航部員）
 昭和 20 年 11 月 15 日 予備役編入
 昭和 21 年 1 月 鹿児島県庁嘱託（商工錬勤務）
 昭和 21 年 5 月 同職解職
 昭和 27 年 4 月 川内市役所一般事務嘱託員雇用
 昭和 31 年 3 月 同職解職
 昭和 36 年 5 月 山元石油株式会社勤務
 昭和 39 年 3 月 同社退職
 1964 昭和 39 年 4 月 川島学園鹿児島実業高等学校川内分校開校（後に川内実業高等学校に校名改名，現れいめい高校）に伴い同校数学教諭に乞われ奉職
 1971 昭和 46 年 7 月 19 日 肝臓癌のため，62 歳の生涯閉じる。葬儀は学園葬で行われ旧海軍式の連帯責任で鍛えられた教え子の吹奏する『海ゆかば』の曲に送られ実施される。

☆ 第5特攻戦隊司令部幕僚



司令 駒沢 克己 海軍少将



— 首席参謀 高橋 優 海軍大佐
 — 水雷参謀 桑原 新兵衛 海軍中佐
 — 通信参謀 堀家 金一 海軍中佐
 — 砲術参謀 豊島 俊男 海軍少佐
 — 補給参謀 三原 宗夫 海軍少佐

想い出＝妻トヨの母は，新兵衛の母の妹に当たり，新兵衛の両親が，早く死んだため，小学生時代からそれとなく面倒を見ていたようである。新兵衛は小学生時代から頭脳・体力と

もに秀であり、小学校の先生の説得があり、長兄の栄二が弟のために人力車を引いて中学校の学資を捻出し卒業させたとして当時の新聞に兄弟の美談として報じられたとか。

なお中学時代の父の友人の話では、中学4年間の成績は、東京帝大に進学した二番目に比べても群を抜いてトップであった。長兄に経済的負担をかけないよう学費の不要な学校として同文書院と海軍兵学校を受験したようである。

少尉任官の際の軍刀は、農民出身のため先祖伝来の日本刀なく、叔母に当たる妻トヨの母が、甥の恥にならないようにと宮之城町の知り合いに頼み、購入して与えたもので、高価な刀であったんだという話を生前の風口の祖母から聞いたことあり。口癖としては、何も怖いものはない。ミッドウェーで戦死した同期のことを思えば俺は長生きしているのだから。

戦争体験については、家人に多くを語らない父であり、人と話をするより、答えが一つしか出ないという数学の問題を解くのを楽しみにしていた父であり、公職追放中の農業従事者でも新聞に掲載される大学入試問題を解くのを楽しみにしており、田圃にまで新聞をもって行き、田圃一畦の草取りをしては土手に腰掛け、新聞を読んでいたとの笑い話も伝えられている。

本市高城町出身の初代横綱西の海嘉次郎の血を引き明治生まれの人の中では群を抜いて身長高く、海兵同期では一番背は高かったようで1 丈 7 8 釐あり、体重は一番増えた時は78kgもあったとか。

【編集後記】

米国旅行記の第1版を発刊したのは、2月19日。その後、写真の少女の名乗りでの感激を追記した第2版を2月27日発刊したが、お世話になった日南市の川越市長との面談の記録を最終版として今回第3版を3月1日付けで発刊することにした。

この私版旅行記は、私の43年間の人生で体験することができなかった貴重な体験を与えてくれるきっかけとなった、今は亡き父・桑原 新兵衛の日本刀返還を機会に、父親とは、国際交流とは、友情とは、家族とは、そして人様の親切とは等々について、考えさして下さるいい契機となったことに深く感謝し、これら感激の出会いを何時までも忘れないよう日記風に記録したものであり、氏名掲載の皆さまには、多々表現上失礼な点があることをお許し願いたい。

平成4（1992）年2月29日 午後11時15分

【ポーツマス(米ニューハンプシャー州)31日、つたが、降伏した日本軍 A P 共同】一九四五年の終戦直後、駐留先の鹿児島県で当時の日本軍地区司令官から日本刀二本を譲り受けた米海軍退役大佐が「これらを本当の持ち主に返したい」と長年捜し続け、そのうちの一本を三十一日、米ニューハンプシャー州ポーツマスでようやく捜し当てた日本人所有者の息子に四十六年ぶりに返還した。

鹿島の遺族に 日本刀を返還

46年ぶり 元米大佐、友好のためと

軍艦艇の艦長の地位にあったが、降伏した日本軍地区司令官と会った際、日本刀二本を渡され、米川内市歴史資料館長の桑原道男さん(四三)川内市御陵下町に突きとめた。父、新兵衛さんは既に七一年に死去していた。

この日、刀を受け取るために渡米した桑原さんは持参した亡父の白黒写真を見せてプロッサーさんに感謝の意を表明。プロッサーさんは新兵衛さんの名札の付いた長さ一呎の日本刀を渡しながら「日米間の経済摩擦や日本たたきがある中でも、両国民は友人でいられることを示したいのだ」と語った。

平成4年2月2日/南日本新聞

46年ぶり「父の日本刀」帰る

元米海軍大佐、名札もとに突きとめ

博物館に
寄贈したい

川内の桑原さん

【ポーツマス(米ニューハンプシャー州)1日 A P】第二次世界大戦直後の日本進駐中、日本人から日本刀を受け取った元米海軍大佐のアルバート・プロッサーさん(五七)米メイン州在住。が先月三十一日、当地で刀を元の所有者の鹿児島川内市に住む息子に手渡した。プロッサーさんは



先月31日、プロッサーさんから返還された父の日本刀を手にする桑原道男さん(左) A P

「米国と日本は経済問題でいがみ合っているが、市民同士は仲良くやれる」といい、四十六年ぶりに「返還」できたことを喜んでいる。プロッサーさんは、終戦の二カ月後、米艦「マーカブ」で鹿児島湾に入港。当時は大佐で、日本側との会談の際、英語を話さない将校から日本刀二本を受け取ったが、二本ともその将校のものではなかったという。

帰国後、プロッサーさんは「刀は持ち主やその家にとっては宝物のはず」と所有者への返還を思い立ち、一本の刀にあった「桑原新兵衛」の名札を頼りに、ニューハンプシャー大学の日本人教授などの協力で、ようやく「新兵衛」さんの子にあたる道男さんが川内市内に健在であることを突き止めた。

道男さんは「父は七一年に亡くなったが、刀のことはもうあきらめていた。父の大事な刀が戻ってこんなにうれしいことはない。家宝であるが、博物館に寄贈したい」と話し、プロッサーさんと肩を突き合った。プロッサーさんは「二本の刀を返したことで私の人生の一章は終わった。しかし、もう一本の刀を所有者に返す仕事はまだ残っている」と話している。

平成4年2月3日/毎日新聞

46年ぶり日本刀返る



31日、米ニューハンプシャー州ポーツマスで、プロッサーさん（左）から受け取った日本刀を持つクワバラ・ミチオさん（中央）（AP=共同）

米海軍元大佐 ↓ 鹿兒島の遺族へ

【ポーツマス（米ニューハンプシャー州）31日AP共同】一九四五年の終戦直後、駐留先の鹿兒島県で当時の日本軍地区司令官から日本刀二本を譲り受けた米海軍退役大佐が「これら二本の持ち主に返したい」と長年探し続け、そのうちの一本を三十一日、米ニューハンプシャー州ポーツマスでようやく捜し当てた日本人所有者の息子に四十六年ぶりに返還した。刀を返したのはメーン州スプリングベールに住むアルバート・プロッサーさん

（左）。プロッサーさんは終戦から二カ月後の四五年十月ごろ、鹿兒島県へ駐留していた米海軍艦艇の艦長の地位にあったが、降伏した日本軍地区司令官と会った際、日本刀二本を渡され、米国へ持ち帰った。プロッサーさんは、ニューハンプシャー大学の日本人教授ヤマモト・ユタカさんの協力も得て、ポーツマス市と姉妹都市である宮崎県日南市からの友好訪問団

を通じて刀の本来の所有者の息子に当たるクワバラ・ミチオさん（鹿兒島県川内市在住）を突き止めた。父、シンベイさんは既に七二年に死去していた。

平成4年2月2日 / 西日本新聞

平成4年2月4日 / 朝日新聞

日本刀 46年ぶり返還

【ポーツマス（米ニューハンプシャー州）31日AP共同】一九四五年の終戦直後、駐留先の鹿兒島県で当時の日本軍地区司令官から日本刀二本を譲り受けた米海軍退役大佐が「これら二本の持ち主に返したい」と長年探し続け、そのうちの一本を三十一日、米ニューハンプシャー州ポーツマスでようやく捜し当てた日本人所有者の息子に四十六年ぶりに返還した。

駐留中に入手の
米海軍退役大佐

持ち主は川内市の桑原さん

息子さんが感謝の意

アルバート・プロッサーさん 地位にあったが、降伏したのを通じて刀の本来の所有者の息子に当たる桑原通男さん（左）。プロッサーさんは終戦から二カ月後の四五年十月ごろ、鹿兒島県へ駐留していた米海軍艦艇の艦長の地位にあったが、降伏した日本軍地区司令官と会った際、日本刀二本を渡され、（川内市在住）を突き止めた。

刀を返したのはメーン州スプリングベールに住むアルバート・プロッサーさん。米国へ持ち帰った。プロッサーさんは、ニューハンプシャー大学の日本人教授ヤマモト・ユタカさんの協力も得て、ポーツマス市と姉妹都市である宮崎県日南市からの友好訪問団を通じて刀の本来の所有者の息子に当たるクワバラ・ミチオさん（鹿兒島県川内市在住）を突き止めた。父、シンベイさんは既に七二年に死去していた。

この日、刀を受け取るために渡米した桑原さんは持参した父の白黒写真を見せてプロッサーさんに感謝の意を表明した。プロッサーさんは新兵衛さんの名札の付いた長さ一尺の日本刀を渡しながら「日米間の経済摩擦や日本たたきがある中でも、両国民は友人でいられることを示したいのだ」と語った。

写真の少女知りませんか

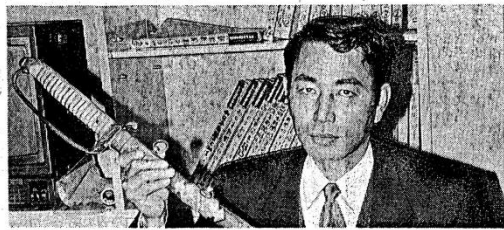
米軍退役将校から預かる

日本刀返還のお返し

川内の男性



現役時代のプロッサーさんと一緒に写っている少女（昭和20年12月撮影・上）と持ち帰った亡父の日本刀を披露する桑原さん



「この写真に心当たりの川内市歴史資料館長の桑原さんはいませんか」。米メ道男さん（現川内市御陵）に下町が、プロッサーさん（現米海軍退役大佐アルバ）から預かってきた写真の女（ト・プロッサーさん）性を捜している。かたは父の日本刀を四十五年の返還されて帰国した二十年十二月プロッサーさん

が鹿児島市で一緒に写ったかわい少女で七、八歳くらい。はしでおかっぱに納まったこの少女が、番人なつこかたという。プロッサーさんは、鹿児島駐留中に、降伏した日本軍地区司令官から渡された

二本の日本刀の持ち手を渡し続けた。そのうちの一本が桑原さんの亡父・新兵衛さんの持ち物だった。ポーツマス市と姉妹都市である宮崎県日南市の好意で、遺族である桑原さんを捜して友好のシンボルとして返還した。アメリカから日本刀とともに写真を持ち帰った桑原さんは、亡父の日本刀を返還してくれたプロッサーさんへの友情をあかしとして写真の女性を捜してあげたい。心当たりの方はぜひ連絡してほしい」と訴えている。

連絡先は〒8905、川内市中郷町一八七七、川内市歴史資料館（0996）（2）0234。

平成4年2月11日 / 南日本新聞

NETWORK 九州 鹿児島

「写真の少女を捜して」

米海軍の元大佐が依頼

昭和二十一年に鹿児島市に進駐した米海軍の元大佐アルバ・ト・プロッサーさん（現メ道男）に州在住のト・プロッサーさんと一緒に写真に写った女のまねをしている。プロッサーさんは、元海軍地区司令官から譲り受けた写真を、元海軍地区司令官から譲り受けた資料館長の桑原さん（現）に四十年ぶりに渡したが、そのとき桑原さんに写真を託した。

昭和20年 焼け野原の鹿児島 素足でたたずむ...



プロッサーさんから返された日本刀を持ち、桑原道男さんと、プロッサーさんが昭和20年、鹿児島で少女と写った写真（下）

桑原さんは「プロッサー」といって話した。さんは日本の福岡のシンボとプロッサーさんは話した。ルとして軍力を返してくれ」とい。プロッサーさんは終戦後、その持ち物に伝える。プロッサーさんは終戦後、ためにも少女の消息を知ら、譲り受けた軍力を本（せたい）と話している。当時の持主には返したい」と写真館長と二十一年十二月、長年捜し続け、（ニュー）に空襲で焼け野原になったプロッサー大佐の持物の軍刀返還。川内市の桑原さんに。鹿児島市内で撮影した。協力も得て本表の所有書でしい日時、場所を明記ある海軍中佐、桑原新兵衛のト・プロッサーさんと、現川内市故人の二男、桑原八郎（現）の娘、原道男さん（現）に渡した。桑原八郎は並に並んで、桑原さんは一月下旬に訪れる。少女はもへを、米軍力を受け取った。桑原は（はだ）、「開く、原さんへの連絡は同僚を通じて集まってきた供たちの料（0996）（2）0234」へ。

平成4年2月15日 / 西日本新聞

米退役大佐が捜していた 写真の少女見つかる

鹿児島市

終戦直後の鹿児島市で、当時の米軍駆逐艦艦長が一緒に写真を写し、消息を尋ねていた少女は現在も健在で、同市に住んでいることが分かった。元艦長から写真を預かった川内市立歴史資料館館長の桑原道男さん(回)が二十五日、女性に会って確認した。桑原さんは「古い話で、女性も自分だと確信はできないようだが、間違いないと思う。さっそく米軍に連絡したい」と喜んでいる。

捜していたのはメーン州の米海軍退役大佐アルバート・プロッサーさん(回)。写真は鹿児島に駐留していた昭和二十年十二月、空襲で焼け野原になった同市で撮影した。女性(左)は「当時の写真は無く、自分だと

平成4年2月26日/南日本新聞

写真の少女分かる

米退役大佐の尋ね人 鹿児島市内で確認

米軍メーン州スプリングヘールに住む退役海軍大佐アルバート・プロッサーさん(回)が、終戦直後、鹿児島市内で一緒に写真におさ

まった女性を捜していたが、二十五日、この女性は鹿児島市内に住む女性(左)であることが分かった。プロッサーさんから父親

確認した。この女性は当時小学三年。桑原さんが聞いたところでは、女性は、近くに米軍の宿舎があったことからよく遊んでいたことや、写真を撮られた記憶もあり、新聞で写真を見て、すぐに自分と分かった、という。桑原さんは、女性の現在の写真を、プロッサーさんに贈る。

平成4年2月26日/朝日新聞

写真の少女は私？

鹿児島 55歳の主婦「目元、鼻似ている」

元米軍大佐が人探し

米メーン州スプリングヘールに住んでいた元米軍大佐・アルバート・プロッサーさん(回)が捜している終戦直後の写真の少女と思われる人が、鹿児島市内で健在なこと「間違いないのでは」と話したという。

同市内の主婦(左)で、プロッサーさんから人探し、今月上旬、父親(故人)の



プロッサーさんが昭和20年12月当時、鹿児島市内で少女と写った写真

の依頼を受けていた川内市御陵下町、市歴史資料館長桑原道男さん(回)の話を、昭和二十年十二月、鹿児島市内で一緒に写った写真の少女の消息を捜すよう頼ま預かっている写真を持参して対面。主婦の記憶では当時、県立第二鹿児島中(現、甲南高)が米軍の宿舎にあ

平成4年2月26日/読売新聞



File photo

Albert Prosser and his wife, Marion, posed for this photo a few weeks before their 70th wedding anniversary in January 1995.

Albert L. Prosser

Navy veteran, civic leader, 'an inspiration'

SPRINGVALE — Albert L. Prosser, 101, a retired Navy captain who devoted his life to his wife of 73 years and his friends and community, died Saturday at Goodall Hospital in Sanford.

After serving in both World War I and World War II, he spent five decades volunteering for his town and church. He was an author, a historian, an avid birder and a stamp collector. In a 1992 ceremony, Prosser returned a sword to the family of a Japanese commander who gave it to him during a surrender ceremony in 1945.

"He was just a decent guy," said Helen Dow of Brunswick, a niece. "He was fair. He was very slow to criticize, but he had a great sense of what's right and what's not right."

Mr. Prosser was born in Fitchburg, Mass., on Nov. 29, 1896, a son of Albert West and Jeanette Kearney Prosser.

He was a 1914 graduate of Lisbon Falls High School and a 1918 graduate of Bowdoin College. He enlisted in the Navy and graduated from Officers Materiel School at Harvard University in 1919.

During World War I he served in the Navy in the Adriatic Sea; during World War II he served on submarines in the Pacific Theater. He was

promoted to captain in 1943 and retired in 1947.

PASSAGES

Each day the newspaper selects one obituary and seeks to learn more about the life of a person who has lived and worked in Maine. We look for a person who has made a mark on the community or the person's family and circle of friends in small but lasting ways.

He married Marion Williams in 1925 after a two-year submarine tour in the Philippines. The couple celebrated their 73rd anniversary this month. His niece said she was touched by the mutual respect they shared.

"They had a wonderful relationship," she said. "To me, it has been an inspiration. It proves that something like that can exist. The love was there, all right, but it goes much, much deeper than that. They were the best of friends, the very best of friends."

His health had declined for several months, but he was determined to remain at home with his wife, who is 98. On Wednesday, his niece said he told her, "I don't have any aches or any pains. This is just old age."

He was taken to the hospital late Friday night, and passed away hours later.

"He lived a good life," his niece said. "He had plenty of time to do all of the things he wanted to do."

Mr. Prosser was active in many civic affairs. He was a charter trustee of the Sanford Sewer District, the first chairman of the Sanford Planning Board in 1953 and served on the Zoning Board of Appeals from 1954 until 1965. He was a member and former chairman of the Sanford Historical Committee since 1956.

He belonged to the North Parish Congregational Church since 1947 and served as clerk, moderator, historian and chairman of several building committees. He also compiled and published a history of the church in 1961. He was a former trustee of the Acton Congregational Church.

He was a former director of the Sanford Library Association and a former member and past president of the Sanford-Springvale Rotary Club. He was a former member and director of the Sanford-Alfred Historical Society and former president of the Wakefield-Brookfield (N.H.) Historical Society.

He also was a trustee of Nason College from 1948 to 1956 and wrote a history of the college.

"He was so involved, he used to refer to himself as the town handyman," his niece said.

Mr. Prosser was an organizer of the Bowdoin Club of York County and served as president of the Portland Society of Natural History from 1960 until 1965. He was president of the Maine Audubon Society and co-authored the book "Enjoying Maine Birds."

He was an honorary member of the Maine Philatelic Society and was an ardent stamp collector. He donated many of his stamps to Bowdoin College. He also loved opera, and donated his extensive phonograph collection to the University of New Hampshire.

He and his wife also endeared themselves to dozens of children in the Sanford and Springvale areas. For many who are now grown, he is still known fondly as "Grampa."

"As a friend and neighbor, he was always ready to give of himself and his love," said Florence Hanson, a neighbor for 40 years.

Surviving are his wife of Springvale; a sister, Virginia Prosser Clark of Stafford Springs, Conn.; a nephew, Stephen Clark of Connecticut; and two nieces, Helen Dow of Brunswick and Sharon Malloy of Newington, Conn.

A memorial service will be held at 11 a.m. Saturday at North Parish Congregational Church, Main Street, Sanford. Following cremation, burial will be in the spring in Bloomfield, Conn. Arrangements are by Heald Funeral Home, Springvale.

— Jason Wolfe

アルバート エル プロサー

海軍退役軍人、市民の指導者、

アルバート エル プロサー 101歳はサンフォードのグッドオール病院で土曜日に亡くなりました。彼は退役海軍将校であり、彼の73歳？になる妻や友達そして地域のために彼の人生を捧げてきました。

第一次・第二次世界大戦での任務については、50年間に渡って町や教会の為にボランティア活動を行いました。彼は小説家であり、歴史家であり、切手収集家でありました。プロサー氏は1945年の敗戦の時、日本軍の指揮官から日本刀を送られました。そして、その日本刀を1992年のセレモニーの席でその軍人の家族に返しました。

「彼は立派な人であった」と姪の一人ヘレン・ドオウさんは言っていました。「彼は公正であり、批判がましくはないが物事の善悪の判断に優れた人でした」。とも言っていました。

プロサー氏は1896年11月29日にアルバート・ウエストとジャネット・ケアニーの長男として、マサチューセッツ市のフィッチェハーグに生まれました。

彼は1914年にリスボン フォール高校を卒業し、そして1918年にはボウドインカレッジを卒業しました。彼は海軍に入隊し1919年にハーバード大学の士官学部を卒業しました。

第一次世界大戦中はアドリア海の海軍で任務にあたり、第二次世界大戦では太平洋戦域で潜水艦の任務につき、1943年にはキャプテンに昇進しましたが1947年に退役しました。

彼はフィリピンでの2年間の潜水艦勤務の後1925年にマリオン・ウィリアムスさんと結婚しました。今年73回目の結婚記念を祝いました。お互いを尊敬しあい分かちあう姿勢には、とても感動したと彼の姪は話していました。

彼が健康を損なった数か月間、彼は98才になる妻と一緒に家にいることの方を選び、「私は何の痛みもない、これはただ老い故のことである」と彼女に言ったと姪は話していました。

彼は金曜の夜遅く病院に運ばれ、そして数時間後に息を引き取りました。

「彼は素晴らしい人生を送った」と姪は話していました。やりたいことは何でもできる時間を沢山持っていましたから。

プロサー氏は多くの市民活動に熱心でした。彼がたずさわった主な活動：サンフォード・ソアー地区の評議員、1953年には最初のサンフォードの企画委員会の委員長、1954年～1965年まで、1956年からサンフォード歴史委員会のメンバーと委員長、1961年に教会の歴史についての編集出版、アクトン会衆派教会の管財人、サンフォード図書館の館長、サンフォード／スプリングヴェールのロータリークラブのメンバーと会長、サンフォード・アルブレッド歴史協会のメンバーと前理事、ウェクフィールド・ブルックウィールド歴史協会の前会長、1948年から1956年までナソン・カレッジの管財人、カレッジの歴史についての著者、ヨーク地方のボードイン・クラブの組織委員、1960年から1965年までポートランド社会自然史の会長、メイン・オーダボーン社会の会長と「メイン・バースの楽しみ」の共著者、メイン州切手蒐集協会の名誉会員。

彼は多くの事に関わりをもっており、自分自身のことを「町の便利屋」と呼んでいたと彼の姪は語った。

彼は熱心な切手蒐集家でもあったことから、沢山の切手をボードイン カレッジに寄付しました。彼はオペラの愛好家でもあり多数の写真コレクションをニューハンプシャー大学にも寄付しました。

彼と彼の奥さんはサンフォードとスプリングヴェールの多くの子供に慕われた。今でも大きくなった彼らから、“おじいちゃん”と慕われています。

“友達そして隣人として彼はいつも人の為に尽くし敬う人でした”と40年来の隣人であるフロレンス・ハンソンさんは話していました。

彼の奥さんはスプリングヴェールに、妹のヴァージニア・プロサー・クラークさんはスタブオード スプリング コネティカット州、甥のステイファン・クラークさんもコネティカッ

ト州，そして二人の姪ヘレン・ダウさんはフランスウイックにシャロン・マロイさんはニュー
イントンにそれぞれ住んでいます。

追悼式は土曜日の午前11時に行われます。場所はサンフォード，メインストリート，ノ
ース パリッシュ コングリグーション教会。火葬の後，埋葬は春にコネティカット州の
ブルームフィールドでとり行われる予定です。葬儀はスプリングヴェール ヒールド葬儀屋
が行います。

ジェーソン・ウォルフ

※プロッサー大佐から写真の少女を探してに名乗り出ていただいた鹿児島市在住の岩城幾代
さんの米国のお友達から送られた新聞記事の写しと日本語訳文です。

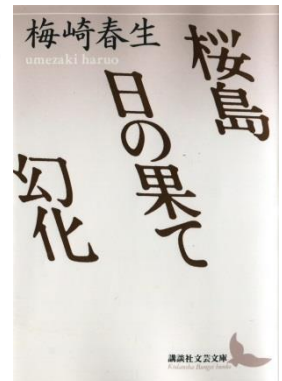
私のHP『ロードマンの家庭菜園便り』＝晴耕雨読でスローライフ&シンプルな暮らしを
標榜する第二の人生への挑戦を，ロードマン流の農事手帳＋備忘録を兼ね，随時更新してい
ますの中の『我が郷中の歴史散策』

<http://www.synapse.ne.jp/je6ssy/rekishisansaku.html>

—太平洋戦争遺産の“特殊地下壕”—の中でプロッサー大佐からの亡父の軍刀返還を次のよ
うに紹介しています。

「※余談ですが，海兵57期卒の職業軍人であった父は，水雷屋で，昭和16年の太平洋戦争開戦時
は，大尉で駆逐艦松風艦長として南西諸島での米英軍の揺動作戦に参加。しかし終戦直前には，乗る
艦船も沈められ，最終的には沖縄を占領した米軍が，志布志湾 or 吹上浜に上陸が予想されるとして，
郷土防衛の任にあたるため，予科練の7ツボタンの歌で有名な土浦海軍航空隊教官兼分隊長から昭和
20年6月には，梅崎春生（福岡市出身：大正4年～昭和40年。徴兵を受け暗号兵として終戦を鹿
児島で迎える。第一次戦後派作家の一人）の処女作『桜島』（昭和21年発表）
の舞台となった桜島の袴腰にあった第五特攻戦隊司令部（司令／駒沢克己少将）
の水雷参謀（中佐）として最後の軍務に従事し，海兵同期が5・15事件に連
座し処分されたりミッドウェイ海戦で多数戦死する中，昭和46年まで生き残
り（62歳で病死）しましたが，従軍した戦争に関しては一切寡黙で語ってくれ
ませんでした。

なお，錦江湾に戦勝国として戦後処理を執行するため終戦の2カ月後入港し
た，米軍駆逐艦「マーカブ」艦長のアルバート・プロッサー大佐から，没収？
されていた父の軍刀（刃渡り72.4釐 銘：越前住兼継・以南蛮鉄作之＝江
戸物）が，平成4年（1992年）1月31日，日露講和条約締結時の外務大
臣／小村寿太郎の故郷＝宮崎県日南市の皆さんの橋渡しで，日米海軍軍人の「友情の証」として，米
国ニューハンプシャー州ポーツマスで返還されました。返還された軍刀を我が国に持ち帰るに当たり，
事前に成田署には，当時勤務していた市歴史資料館の館長（博物館学芸員）の肩書で，学術資料とし
ての国内持ち込みの連絡を入れておいたのですが，成田空港税関では，銃刀法持ち込み違反容疑で黄
色のランプが点灯され，税関職員に両脇を抱えられ別室に連行され，周囲を慌てさせた貴重な体験は，
今では良き思い出に。」



Postscript Memo 平成26年2月27日（木）の夕刻，春作野菜の植え付け準備中に，昔勤務して
いた職場でもある市歴史資料館の学芸員さんから日本刀返還に係る照会を受け，資料ファイルの中に
しまったままになっていた資料を手元を開き，22年前に共に米国まで旅をした日南市の田原さん・
田中会長が既に逝去された中，これら皆さんへの感謝の思い出を蘇らせたいとの強い衝動にかられ，
土・日曜日の農耕の合間を利用し，既刊の『友情の刀』に写真や追加資料を挿入して再編してみまし
た。

2014年／平成26年3月2日（日）22：50記